

■背景・計画目的

広島県三次市はかつて「住みよさランキング」の医療・福祉面の安心度について全国11位（2014年）等の評価をされたこともあった。しかしながら三次市の現状は一部地域を除く多くの地域で高齢化と人口減少が加速し、耕作放棄地も増加していること等住みよさとは真逆の方向に進んでいる。
一方日本全体では日本の平均寿命が日本一であり、さらなる延伸が見込まれることから内閣府が「人生100年時代構想会議」を行うなど若者から高齢者までがすべての人が活躍できる社会を目指して基本構想をまとめている。
本計画では三次市の現状と「人生100年時代構想会議」の基本構想をもとに、三次市に住み三次の産業に従事しながら住み続けられる地域と建築の提案を行う。

■計画地・計画の基本構想

- ・計画地は三次駅を終点にもち、利用人口が見込めなくなったことで廃線となった三江線の線路及び各駅舎を計画地とする。
- ・計画の基本構想
 - ①人生のセカンドステージを迎える高齢者やU・Iターン者が流入しやすい環境の整備
 - ②各駅に生活や雇用にかかわる機能を与えそれらを連結させることによって鉄道沿線で生活が完結できるような一帯の地域を形成する。
 - ③保育士や介護士の処遇改善に向けて人々が互いに支えあうことのできるような空間を形成する。
 - ④各駅の建築形態は個別に計画を行うが地域として一体感が出るように全体共通の要素を組み込みながら計画を行う。

■空間・建築の作り方

・本計画は門型フレームに組み合わせるボックス（チューブ）の形体、組み合わせ方によって作られる空間が変わる。
チューブの形体は各駅の周辺環境や機能のよって変化する。全体として各チューブに機能を割り振り、それらの関係させ方によって各機能に望ましい形態を作り上げる。

①直線型チューブ

上側の図は尾関山駅の建築と敷地の関係であるが周辺の道路と同方向に角度を変えている。敷地からは市街地や川、尾関山公園が見えるため様々な景観を眺めることができる。
また機能を多く与えられる駅は、直線のチューブとすることによって各機能を明確に分離し、各機能同士の接点を与えやすくする。

②曲線型チューブ

下側の図は式敷駅の建築と周辺環境の関係が見て取れる。周囲を山に囲われ、近くを川が流れている地形であるためその関係性を生かし山の稜線と川の流線形を取り入れる。
式敷駅のように機能が少ない駅や単一の機能を持つ駅にはこのような建築形態が適していると考える。



■システムダイアグラム

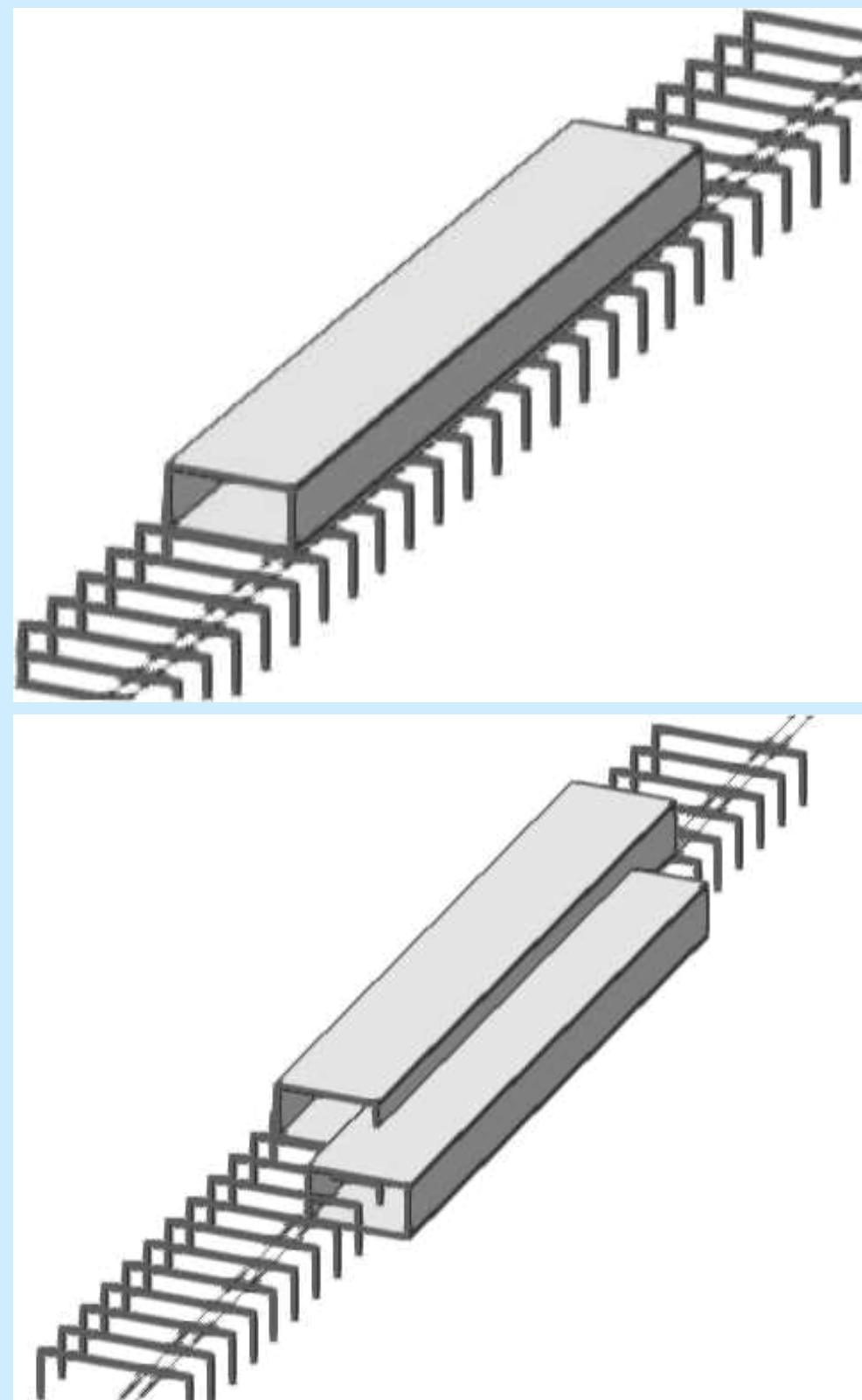
・建築形態は各駅の敷地に適合させつつ共通の要素となるシステムをもとに計画を行う。

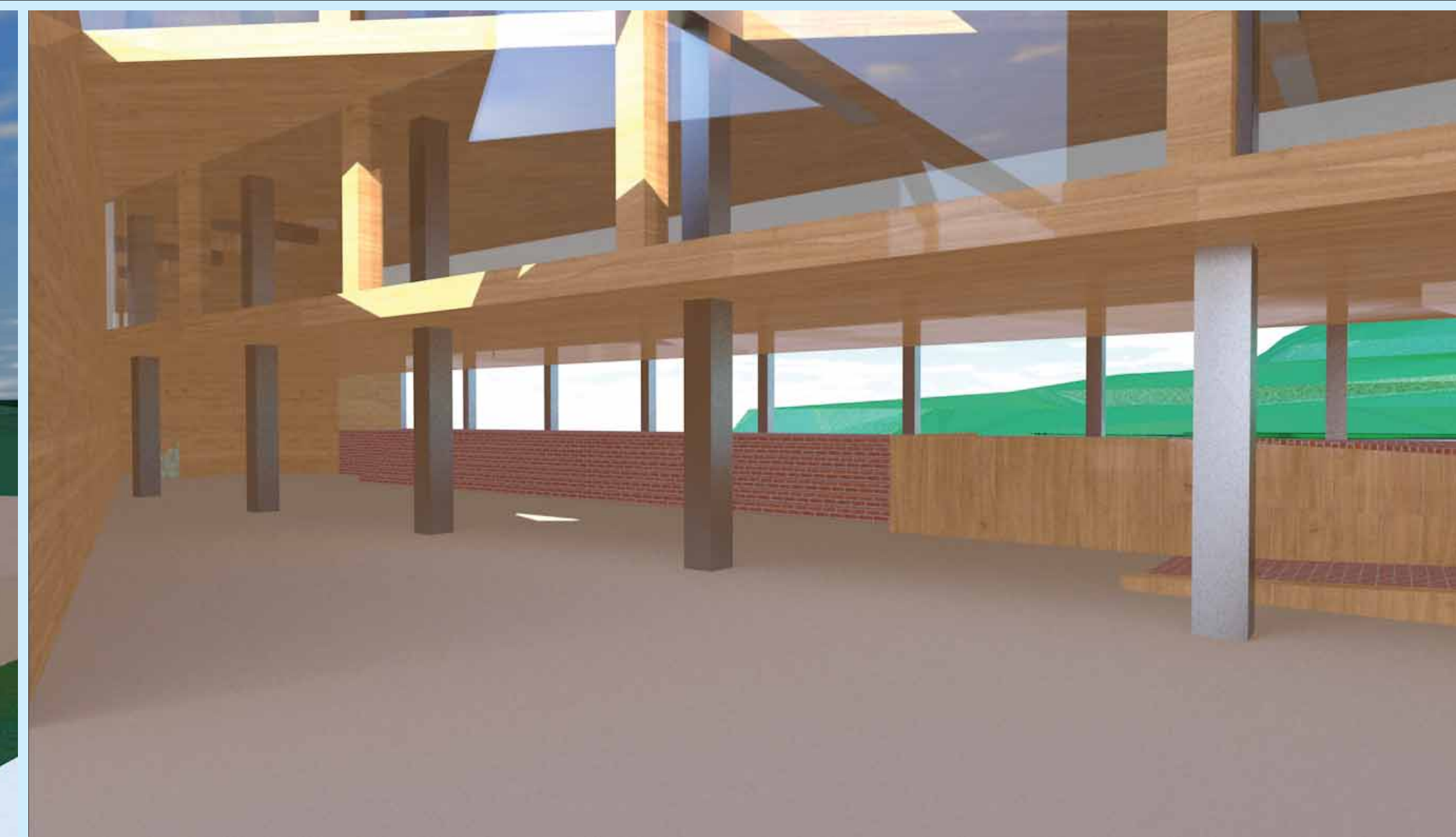
①駅のデザインは線路と車両と適合性のある門型フレームを採用する。

②門型フレームを基本構造としてその上に電車と同じく四角形のチューブの形状をしたボックスを組み合わせる。

③多様な空間を作り上げるためにフレームにボックスを載せるだけでなくフレームから張り出させることや横にずらして噛み合わせるなどの手法を用いる。

④各駅間については門型フレームを連続配置させて計画地全体をつなげる。





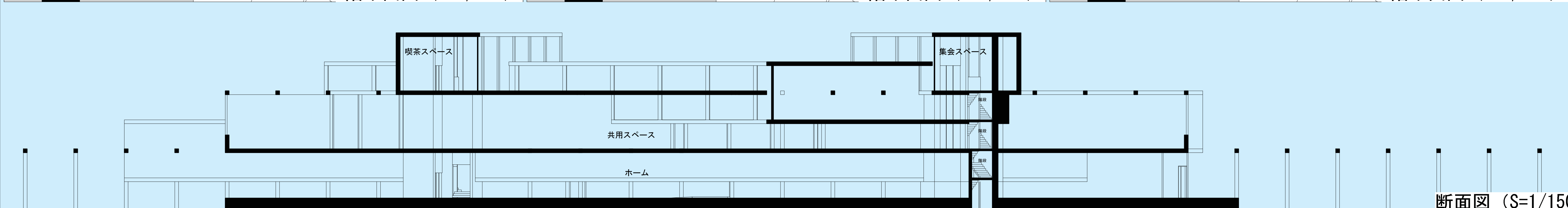
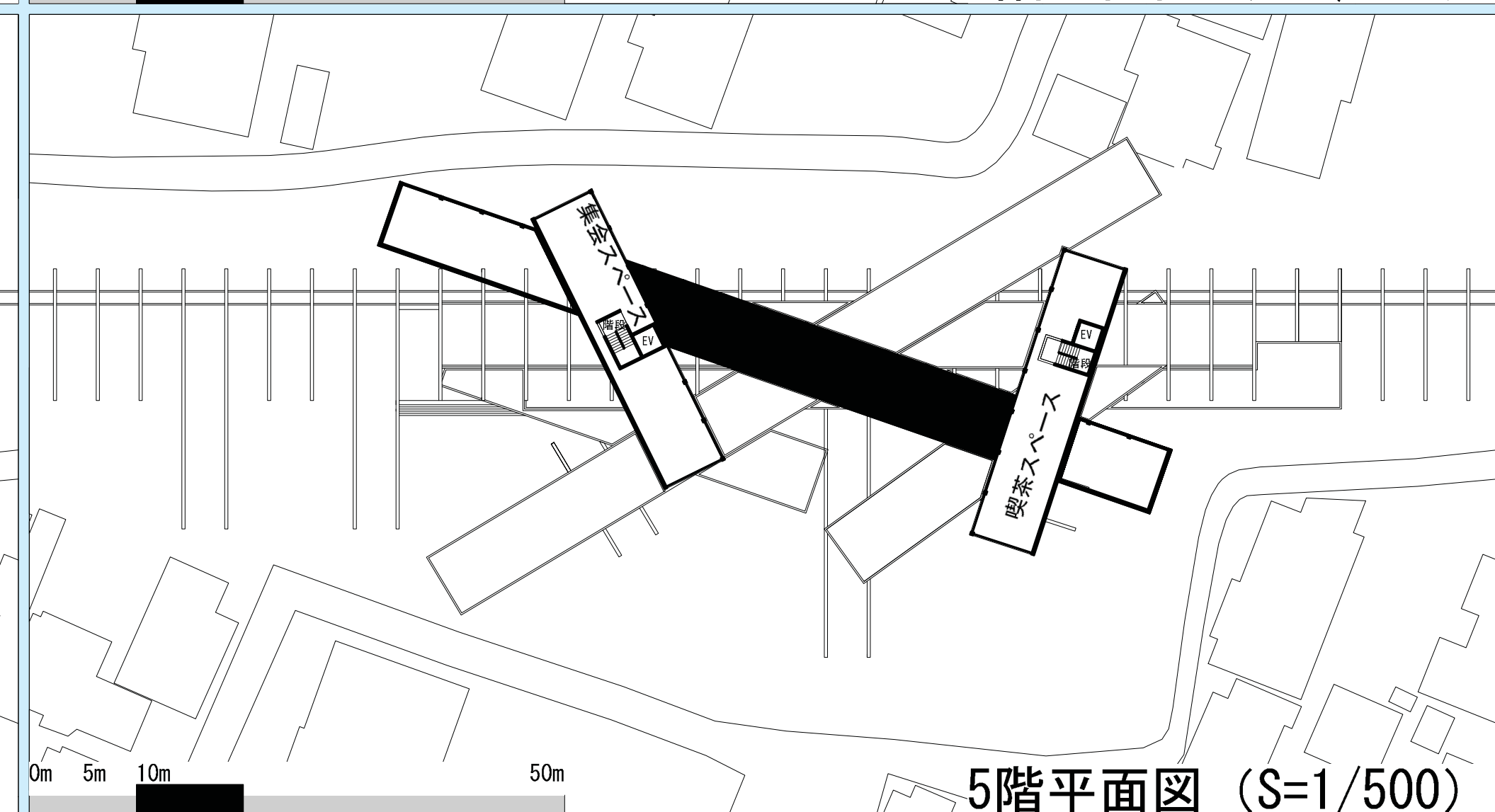
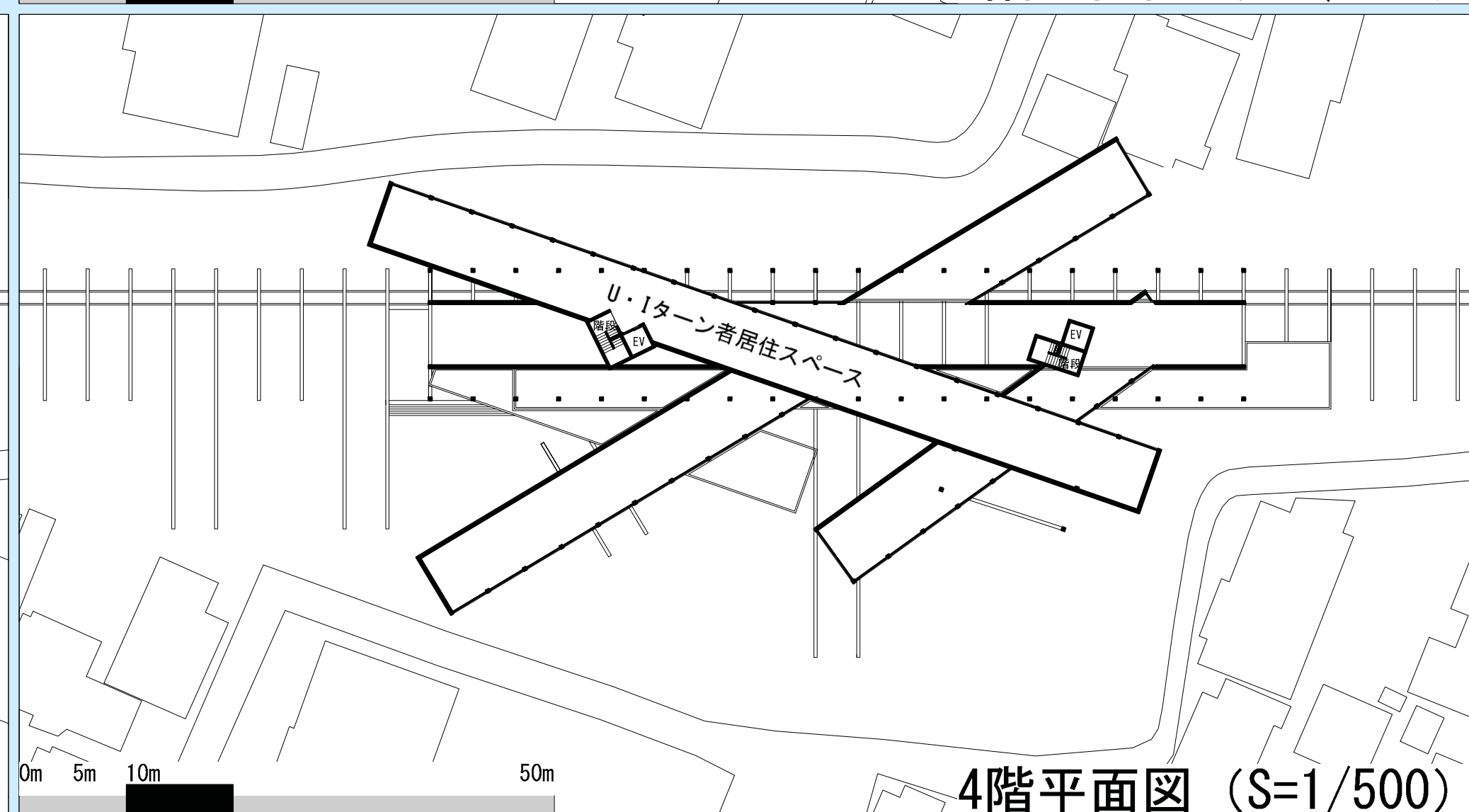
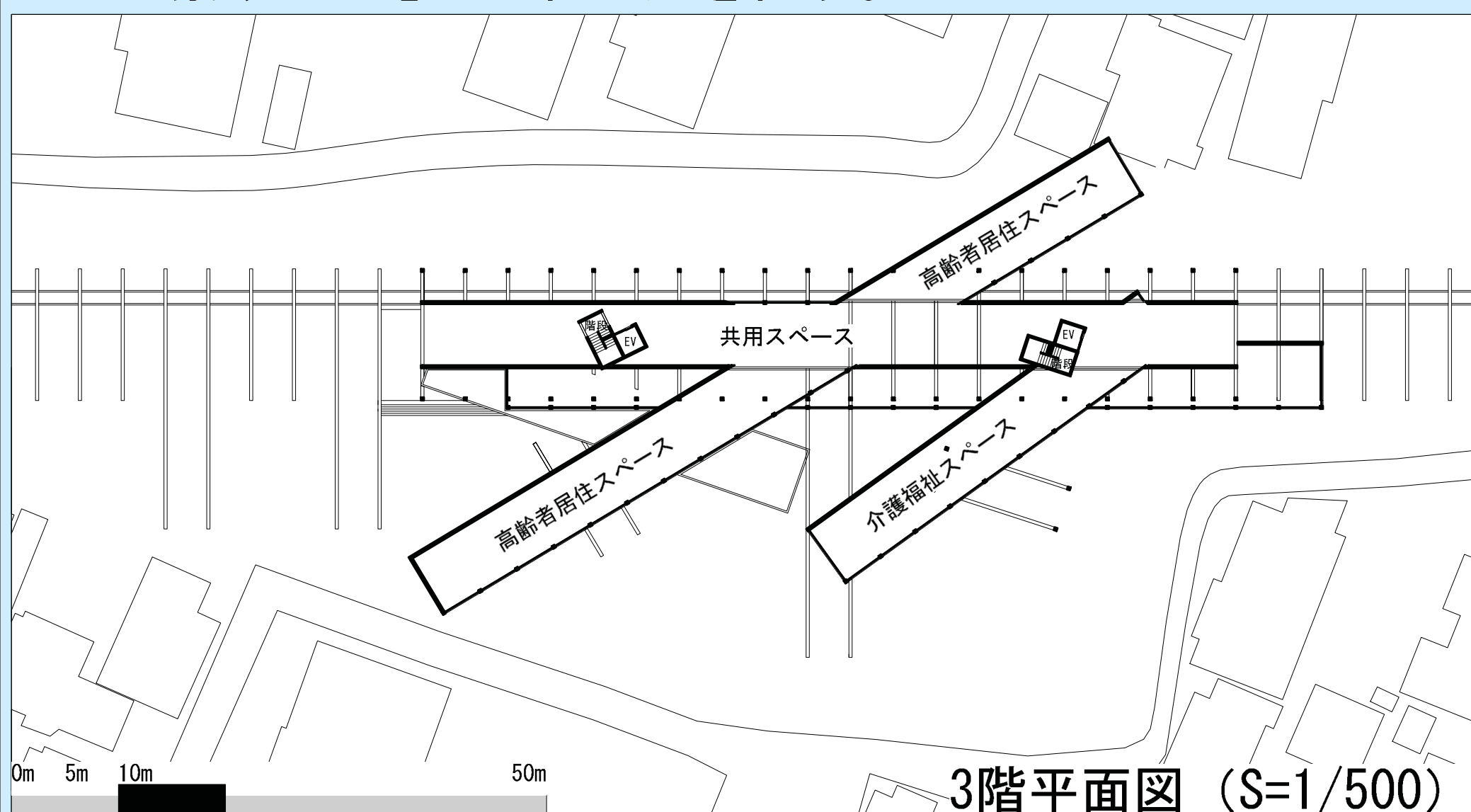
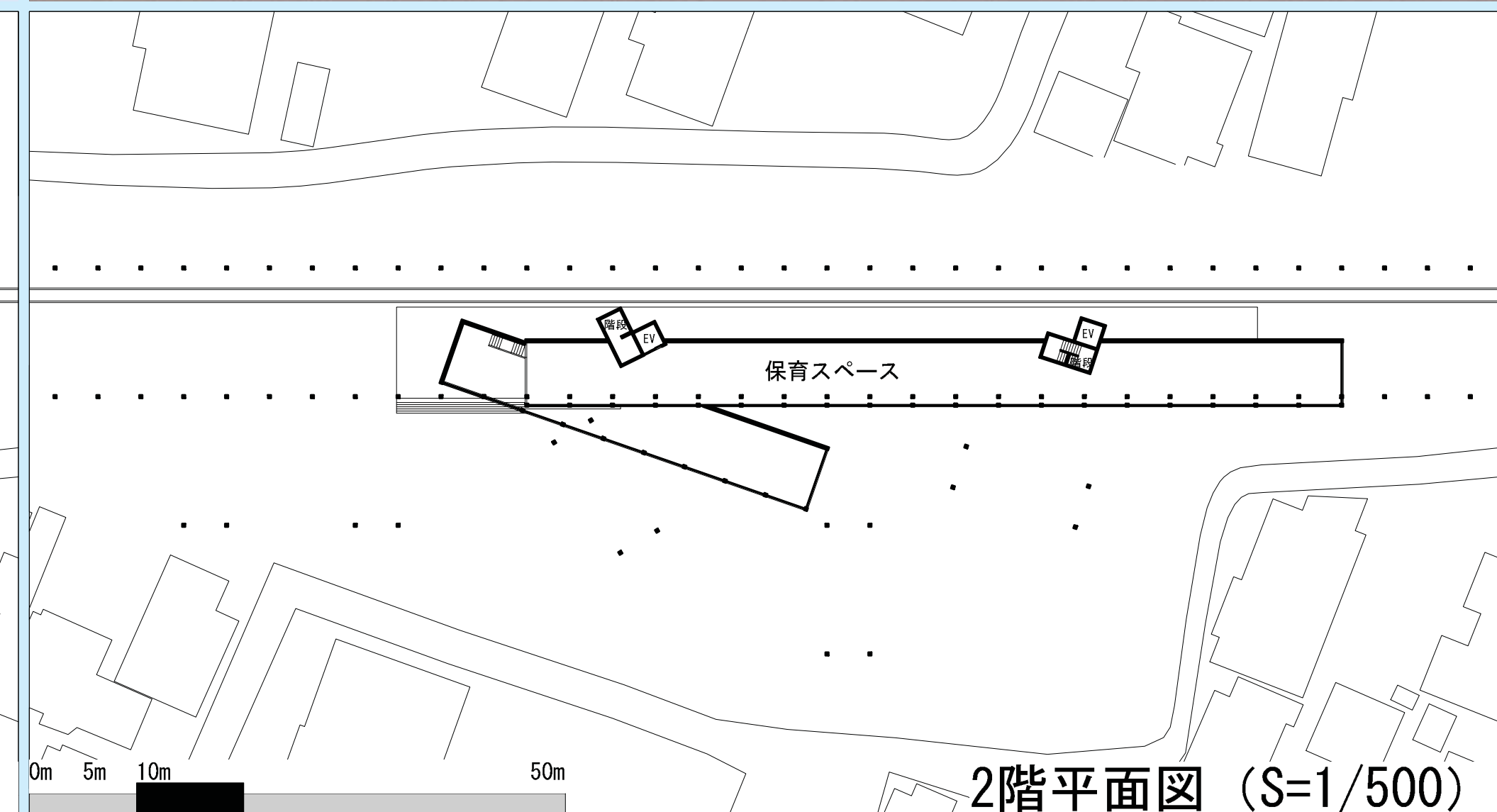
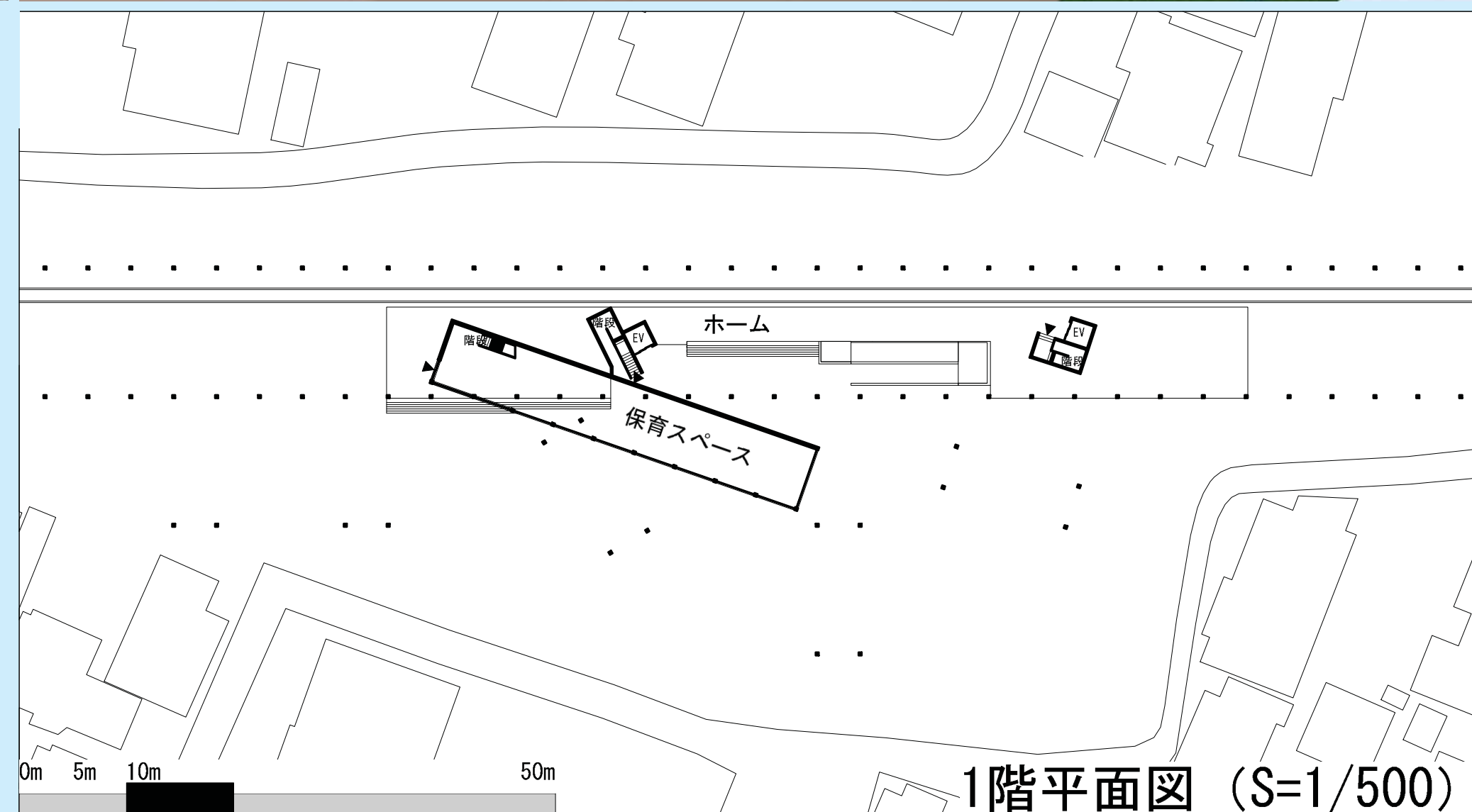
尾関山駅

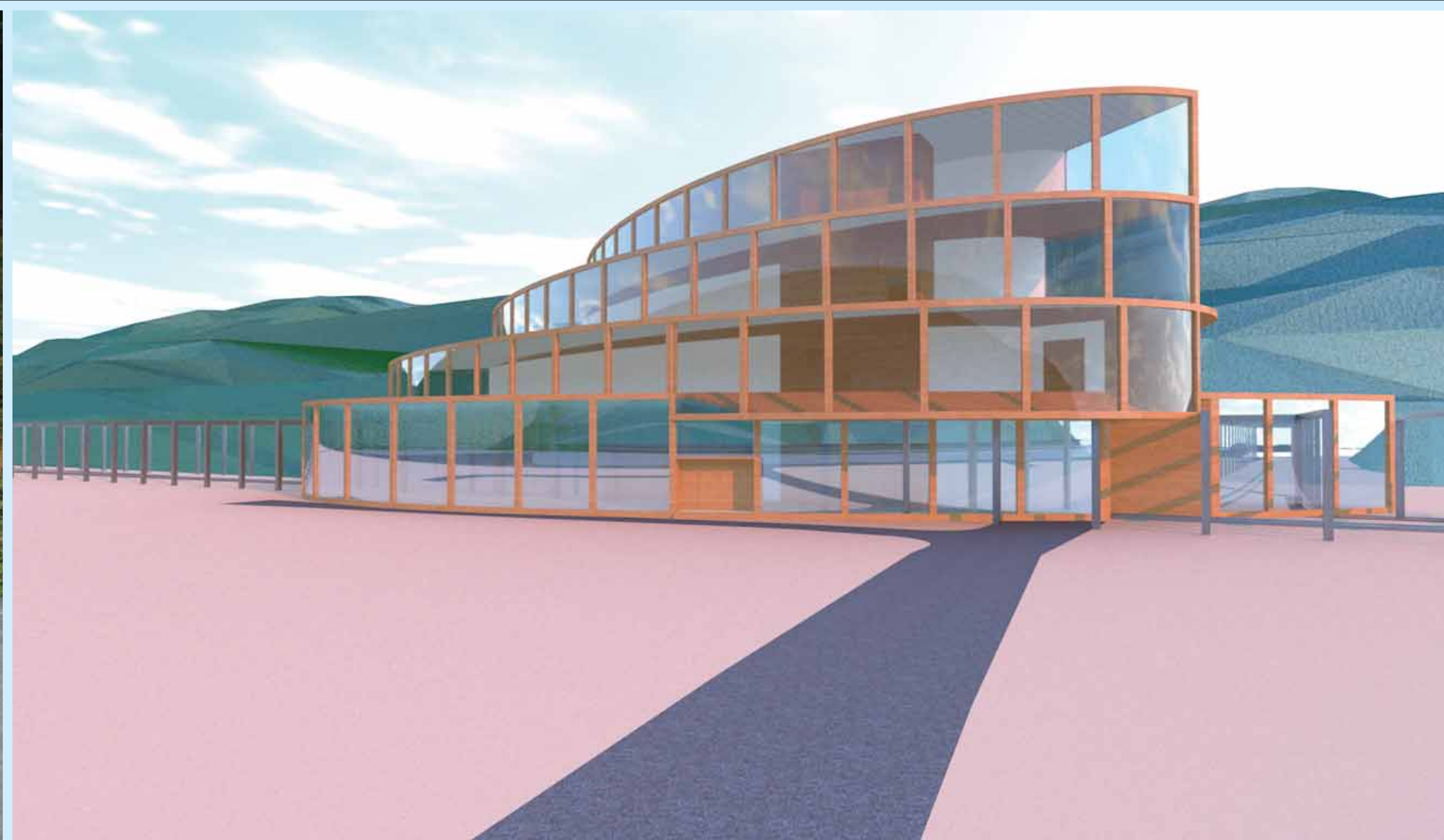
機能：保育・介護福祉・居住

・尾関山駅は三次市の中でも人口密度が高く人口増加傾向にある地域に位置する三次駅に隣接した駅である。比較的広大な敷地は河川に近く、近くには紅葉の名所となっている尾関山公園がある。

また、住宅地の一角に位置するため道路も整備されており利便性と居住性を兼ね備えた敷地である。

・以上の条件からこの敷地には「住む」機能と「福祉」の機能を与え、介護士や保育士の処遇改善ができるような計画を行う。これらの機能は多くの空間を必要とするため明確に分節した直線チューブを組み合わせた形態とする。周辺道路や室内の景観に配慮した組み方を行う。

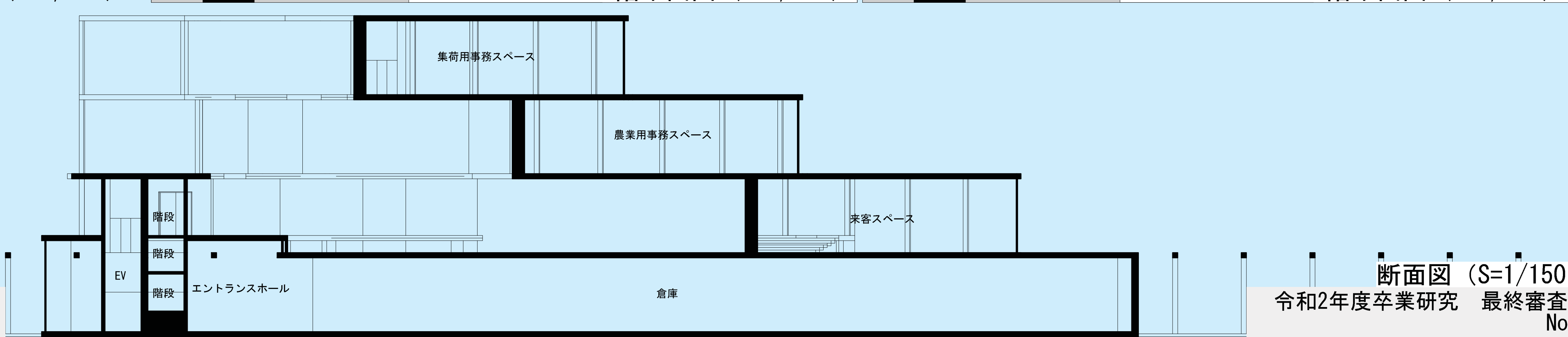
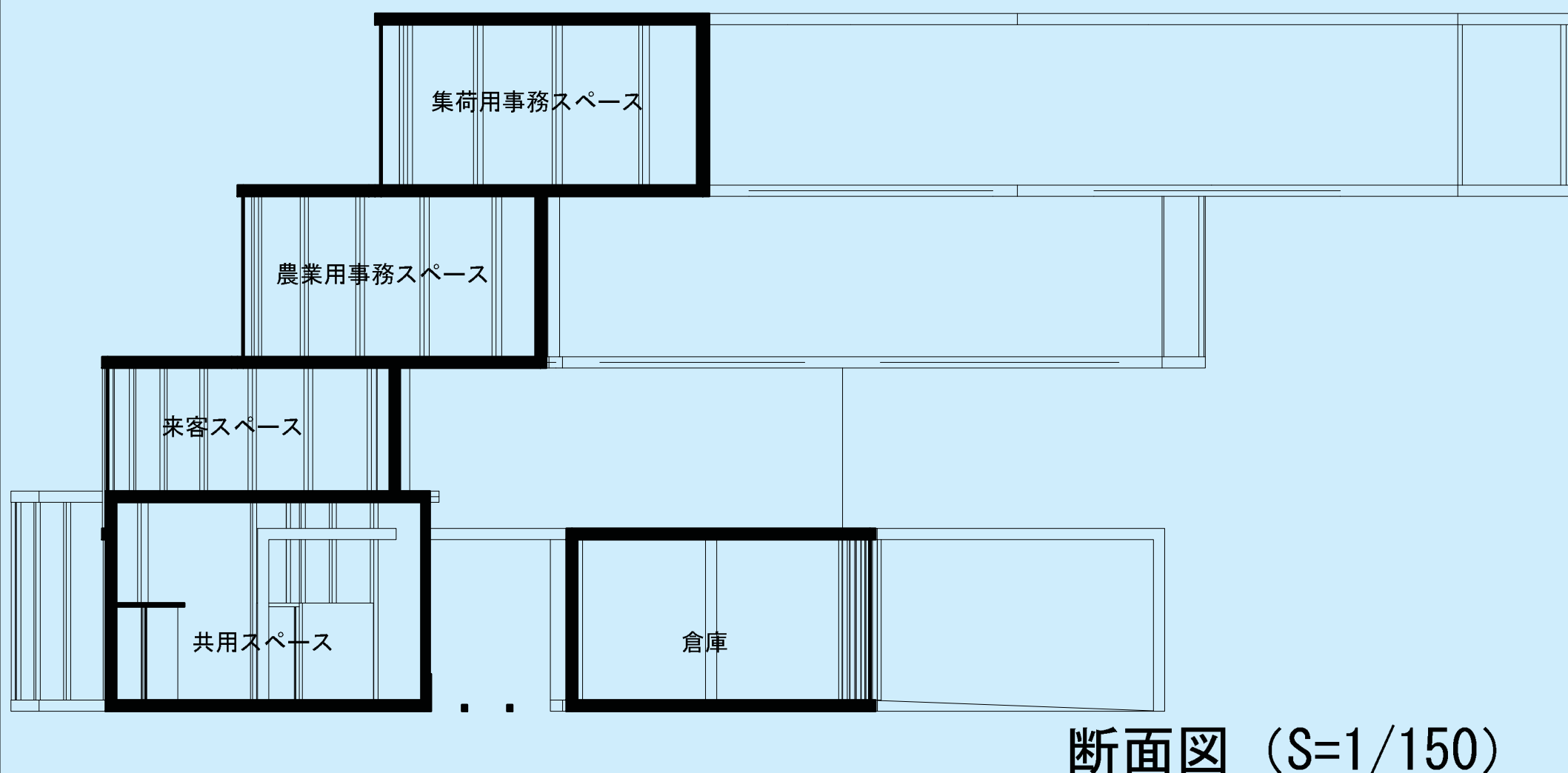
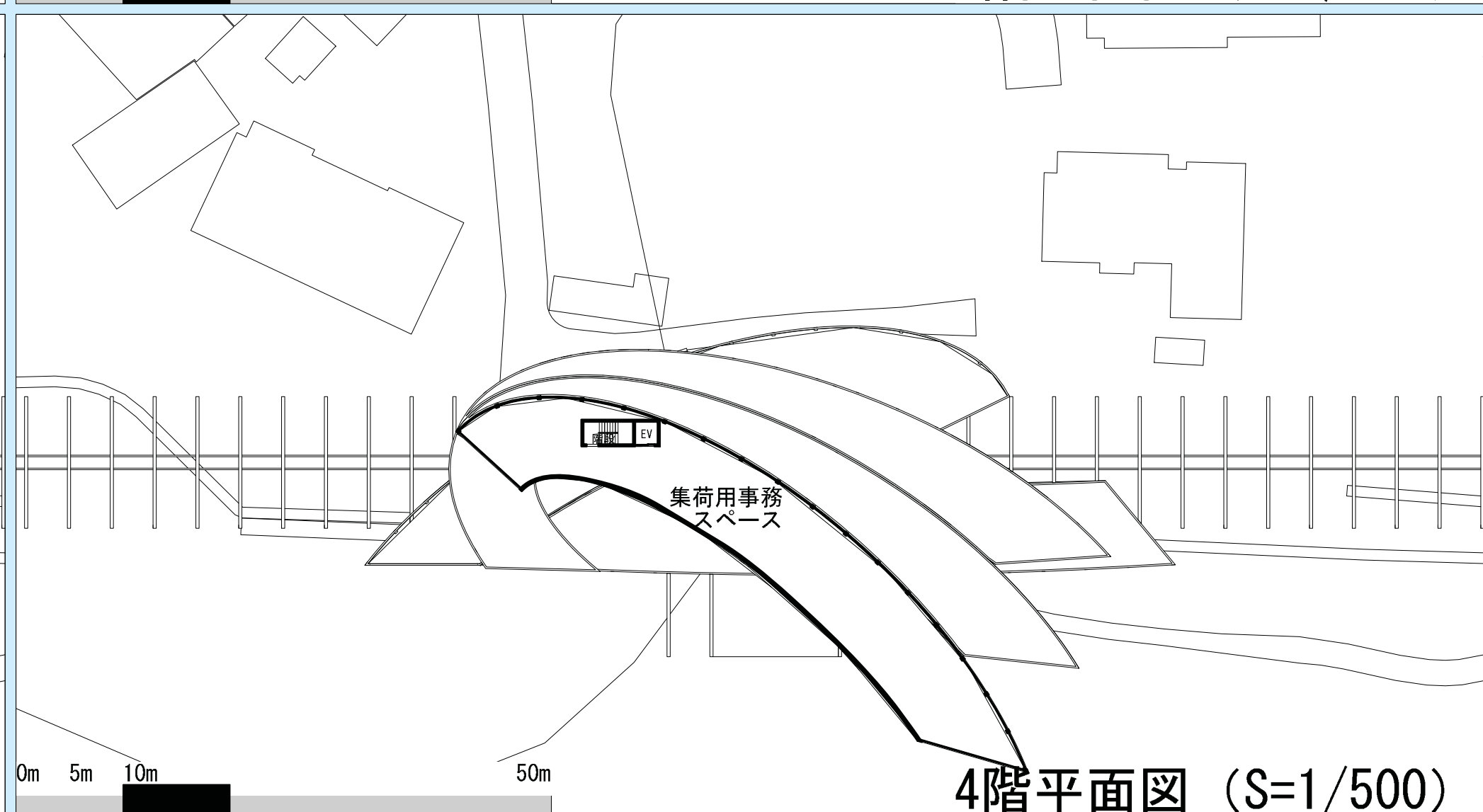
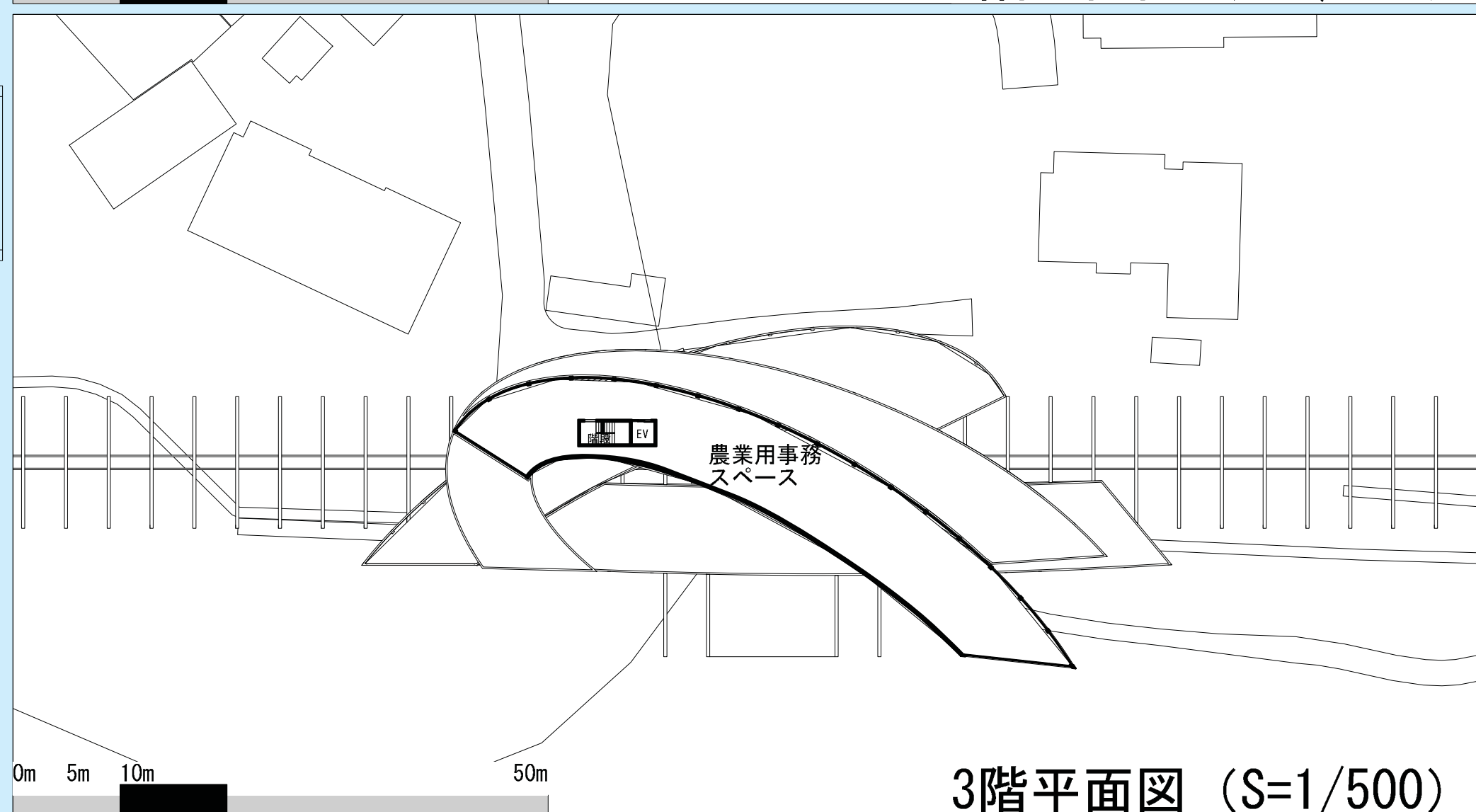
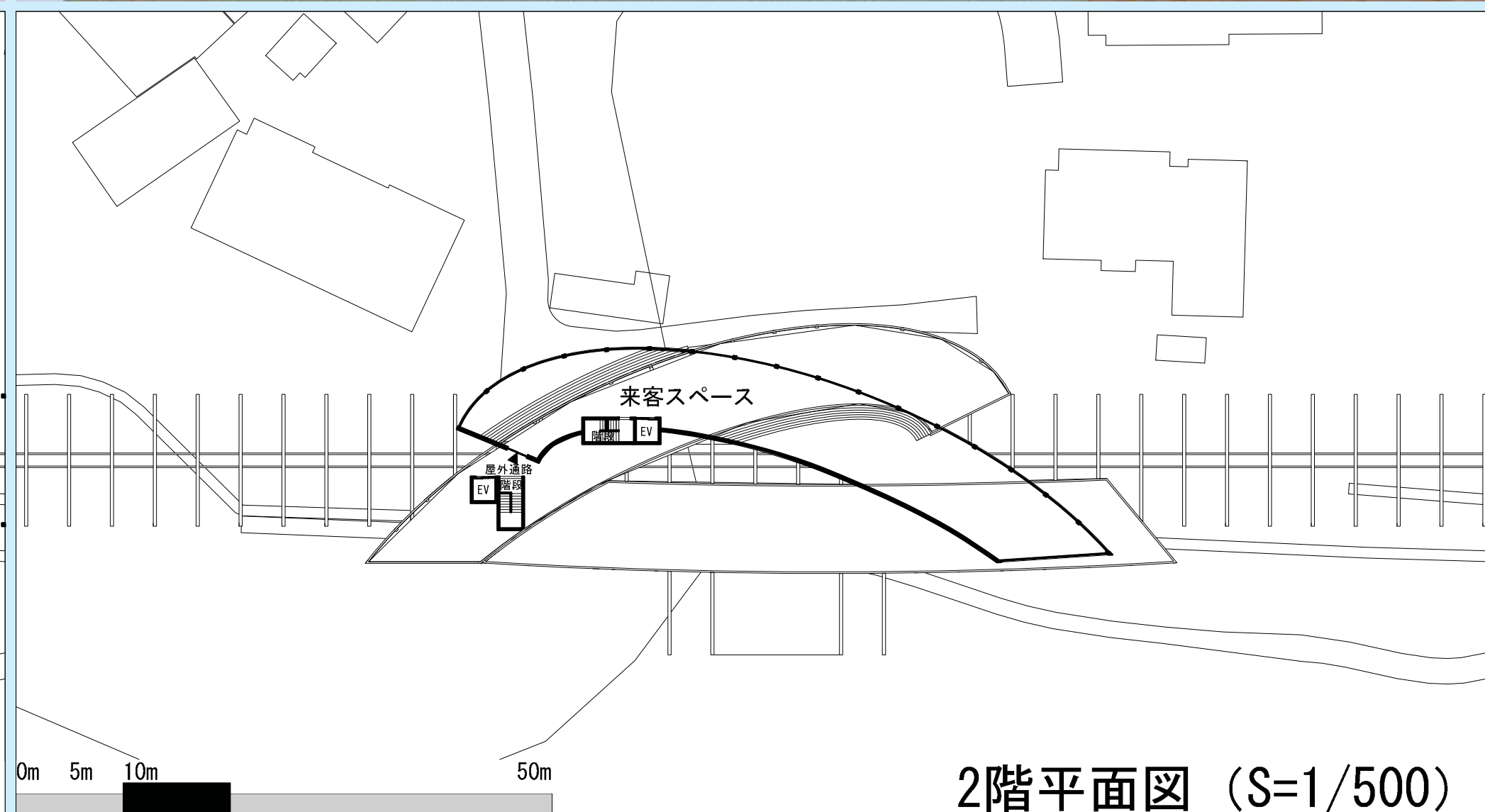
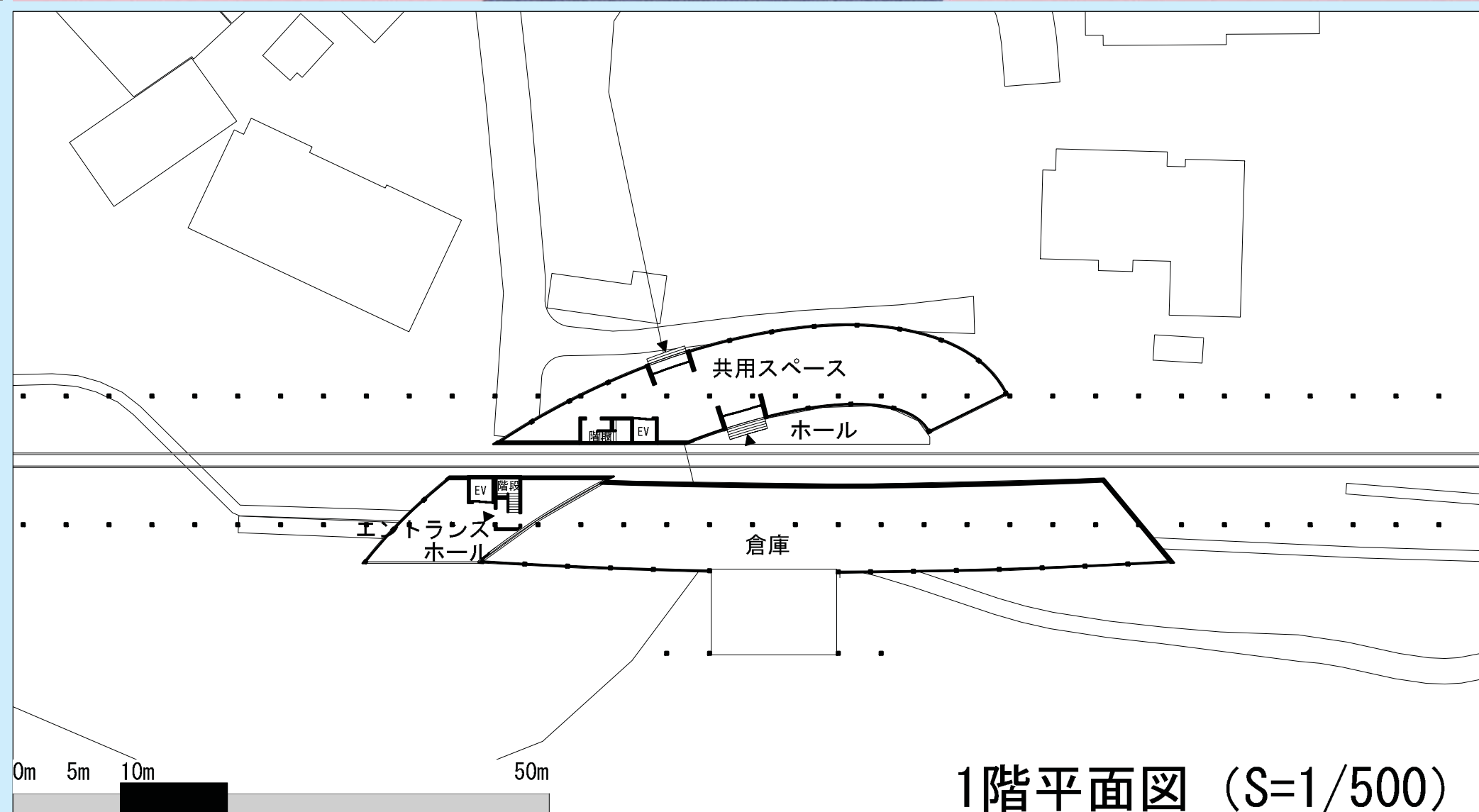


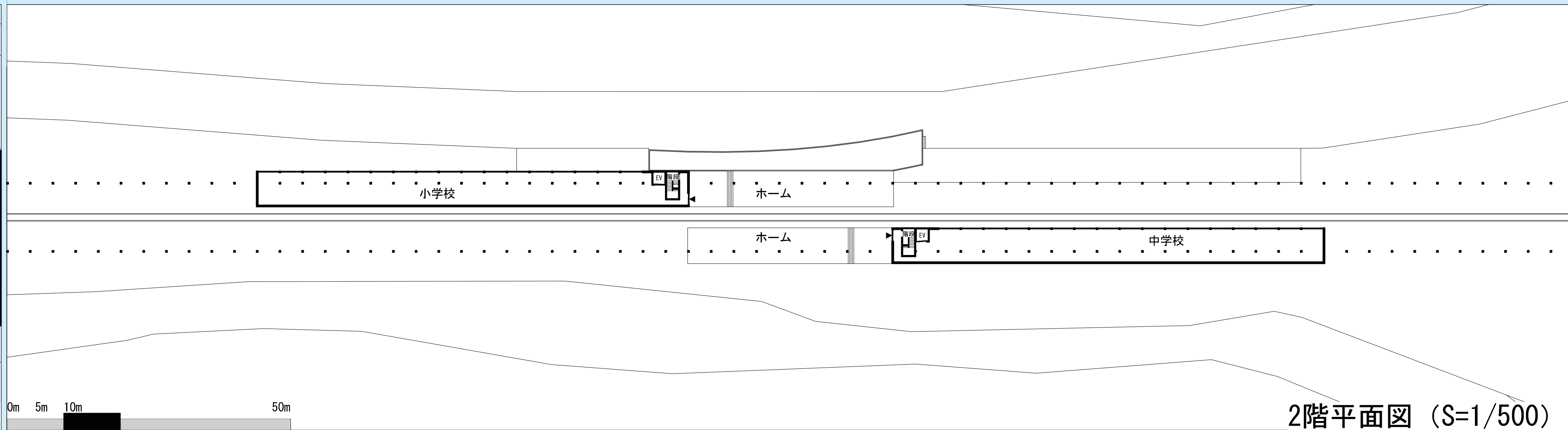
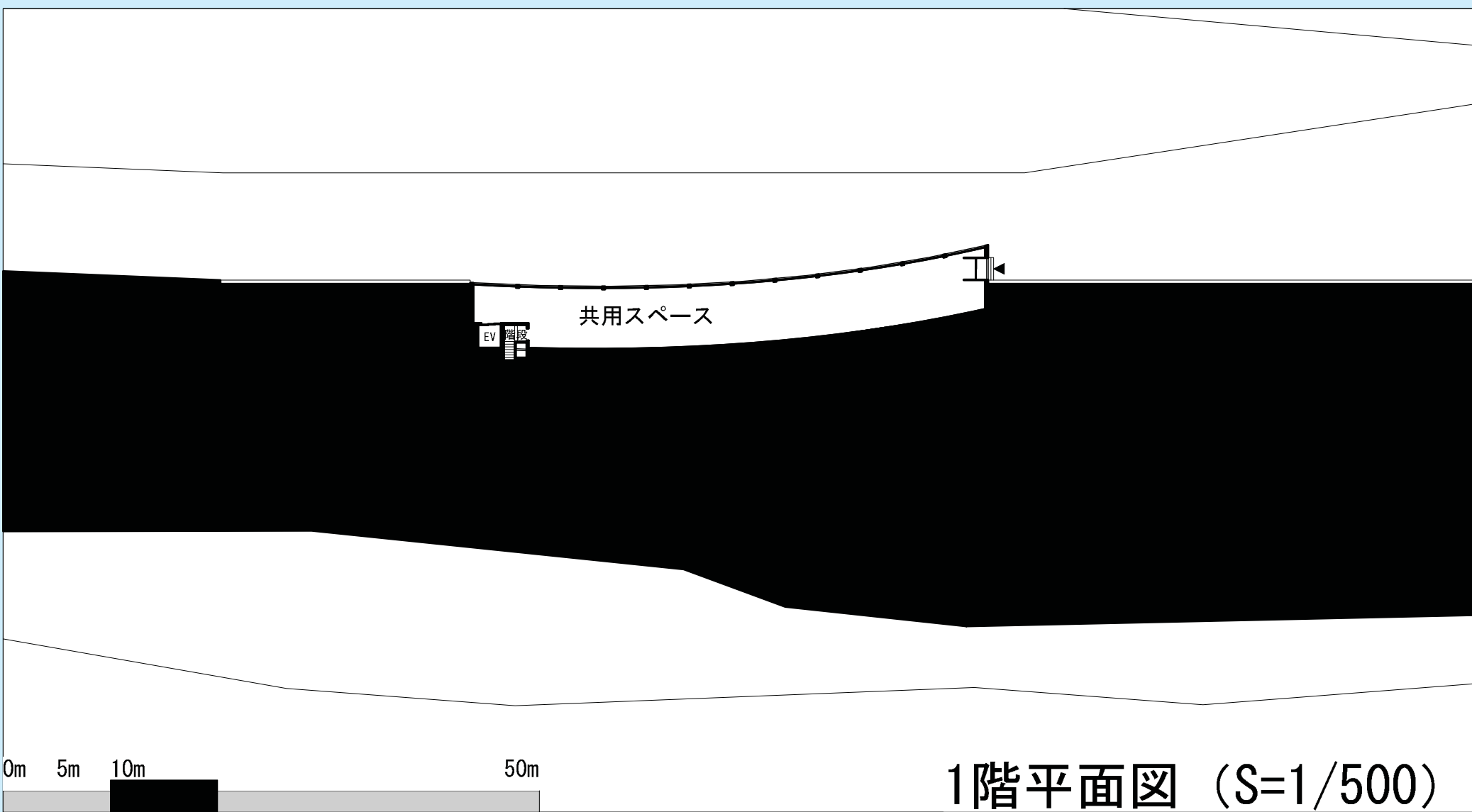


栗屋駅

機能：生産・集荷

- ・栗屋駅は駅舎跡の隣に水田が残っているため農業の「生産」を行う場所として計画を行う。また、県道54号線も近くに位置していることから「集荷」する機能も与えて出荷に向けた機能を与えることができる。
- ・建築の形体は農地の後ろまで山の斜面が迫っていることや敷地の入り口付近に河川が流れていることから曲線のチューブを採用する。機能の用途が限定的なため曲線を持ったチューブを用いて農業・集荷に必要な空間を計画する。

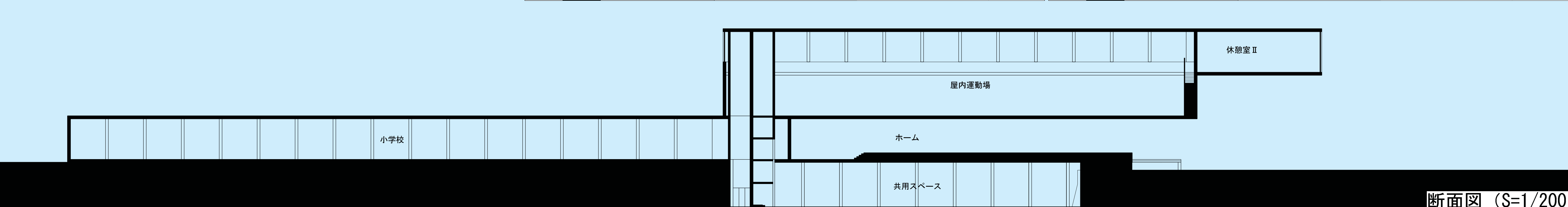
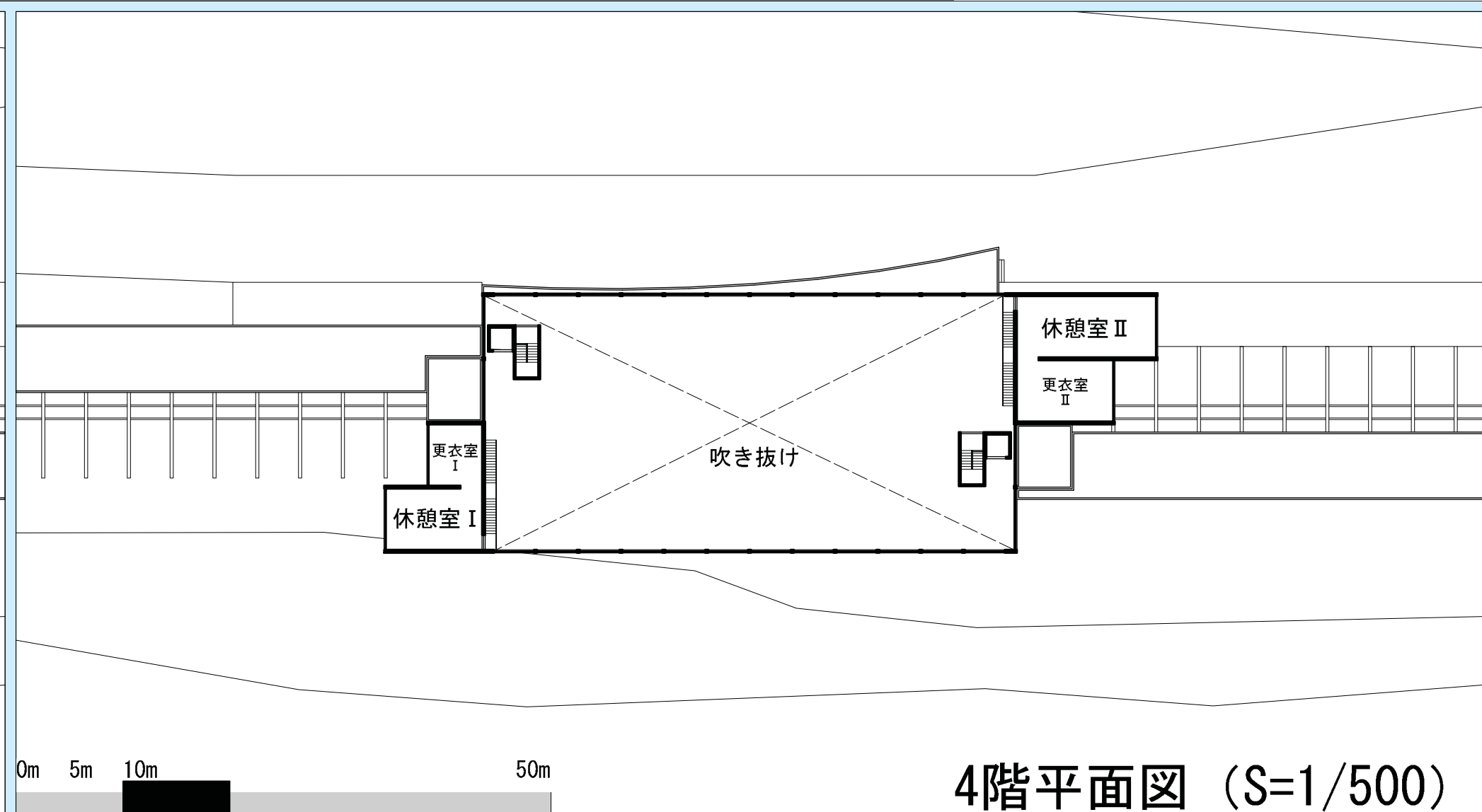
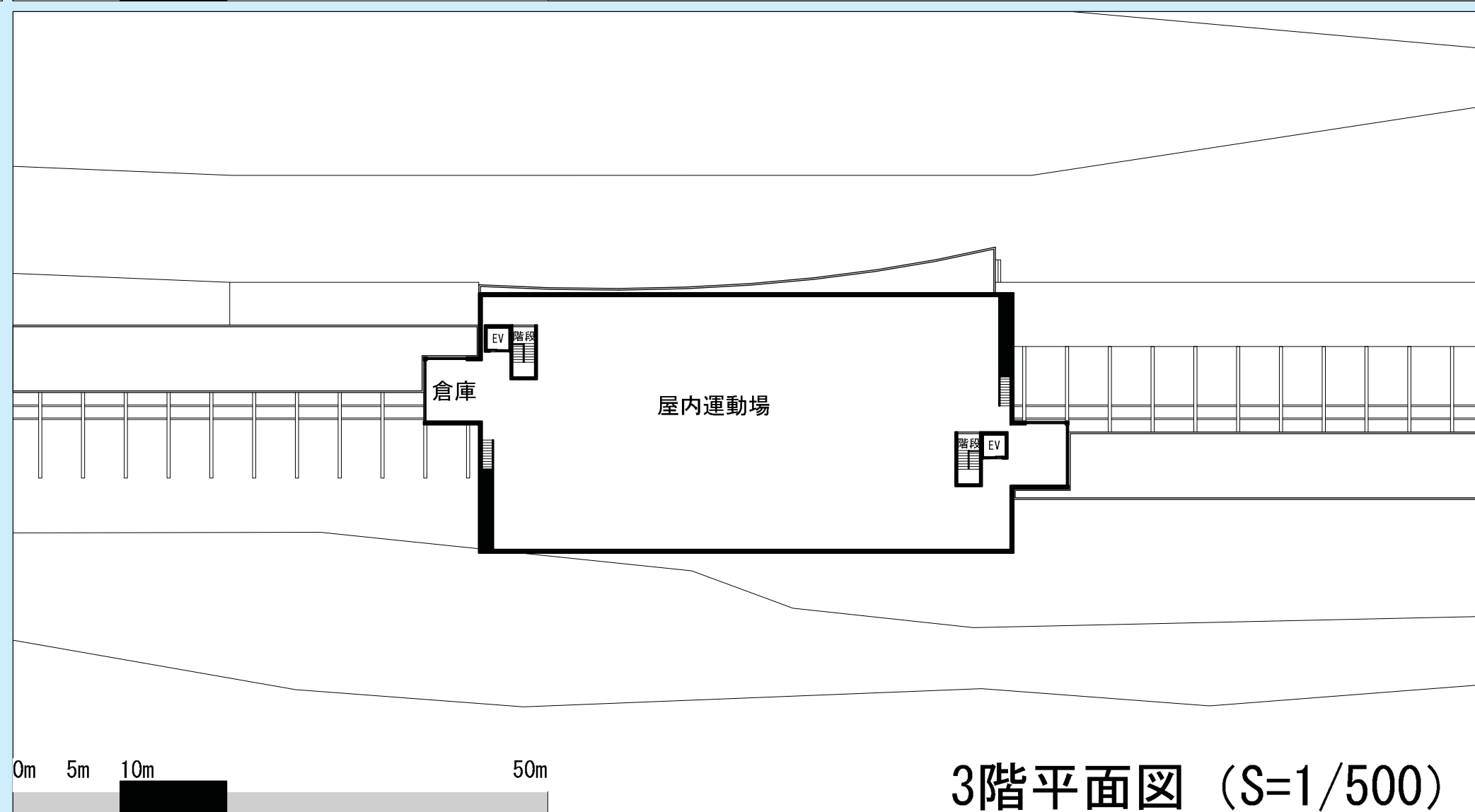




長谷駅

機能：教育

- ・長谷駅も山の斜面と河川に挟まれた所に位置している。しかしながら、この駅の利用者が住んでいたと思われる集落は駅の敷地と多少離れており駅舎跡地にも敷地はあまりない。
- ・このことから長谷駅では駅舎の建物内で完結できる機能を与える必要があるため、子供たちが学ぶことのできる教育の機能を与える。
教育課程に合わせてチューブを分節して計画する。
屋外運動場は他の駅で保管する必要があるが、屋内運動場は直線チューブを組み合わせた様な大空間を作ることができるので3階部分に配置した。

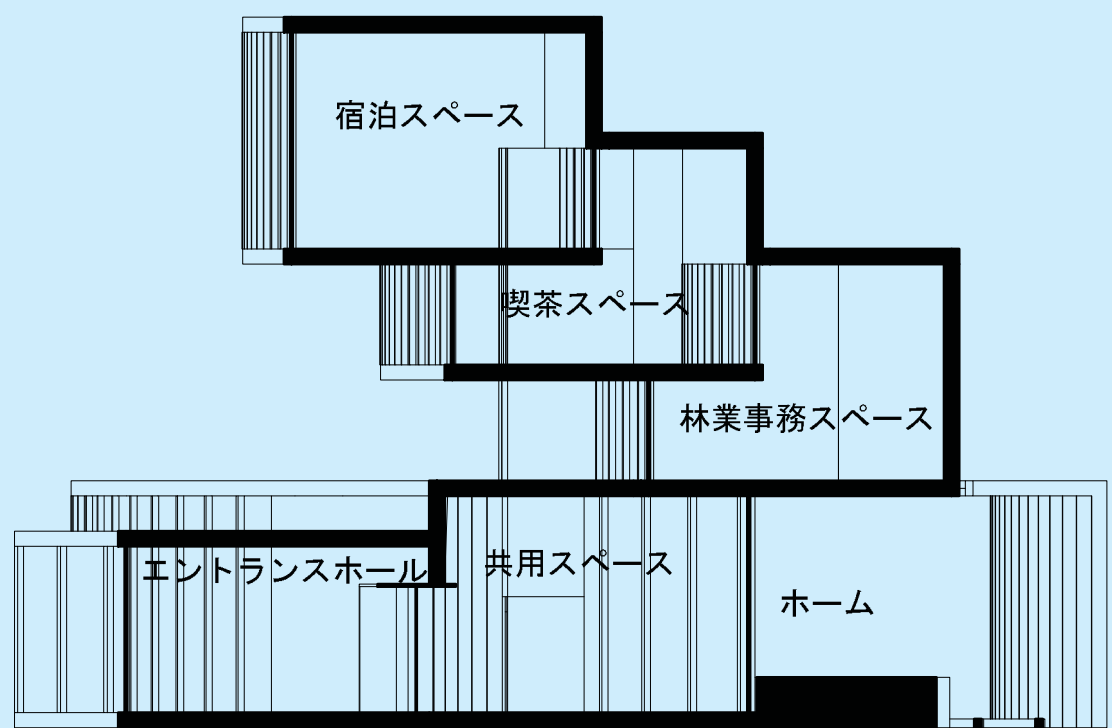
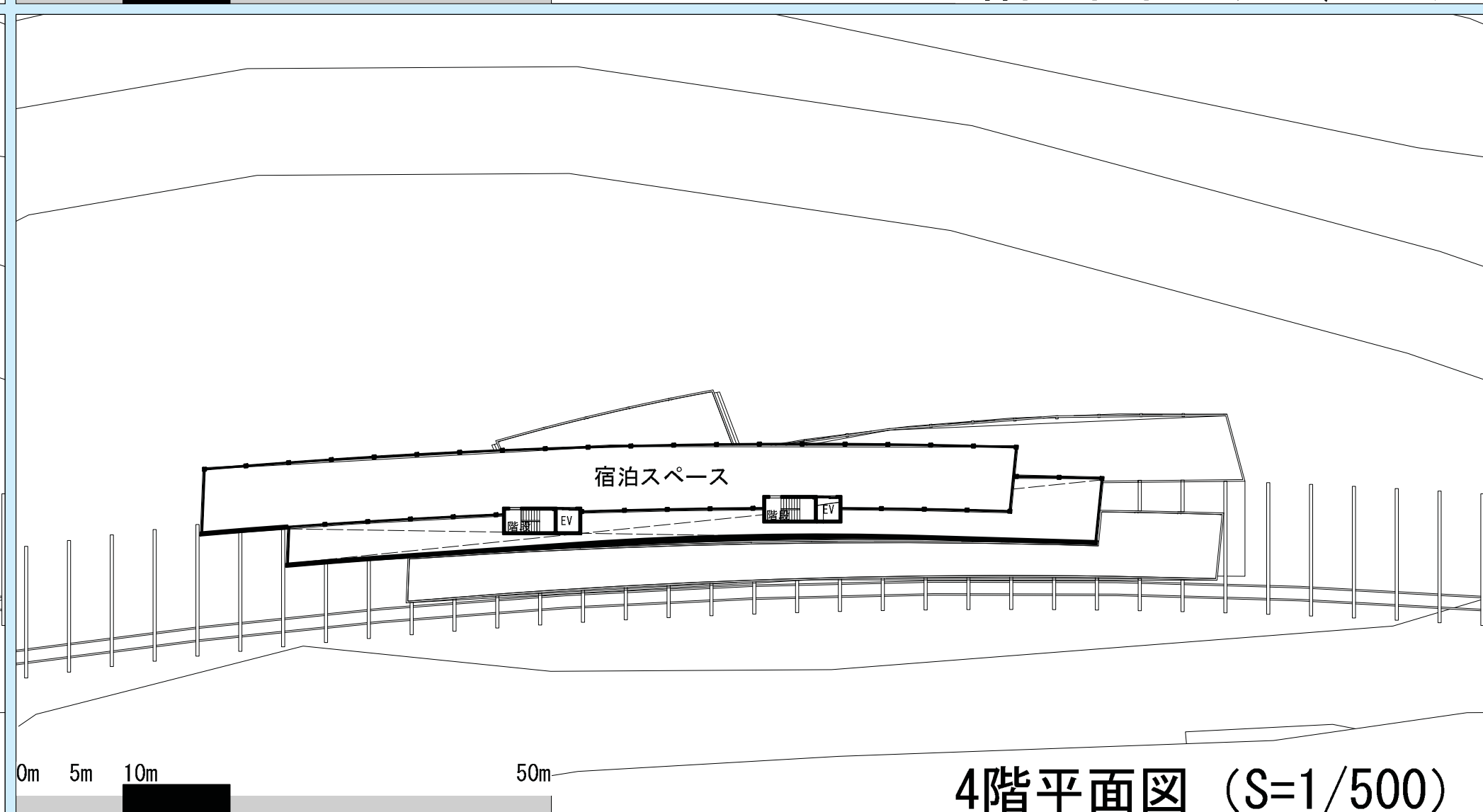
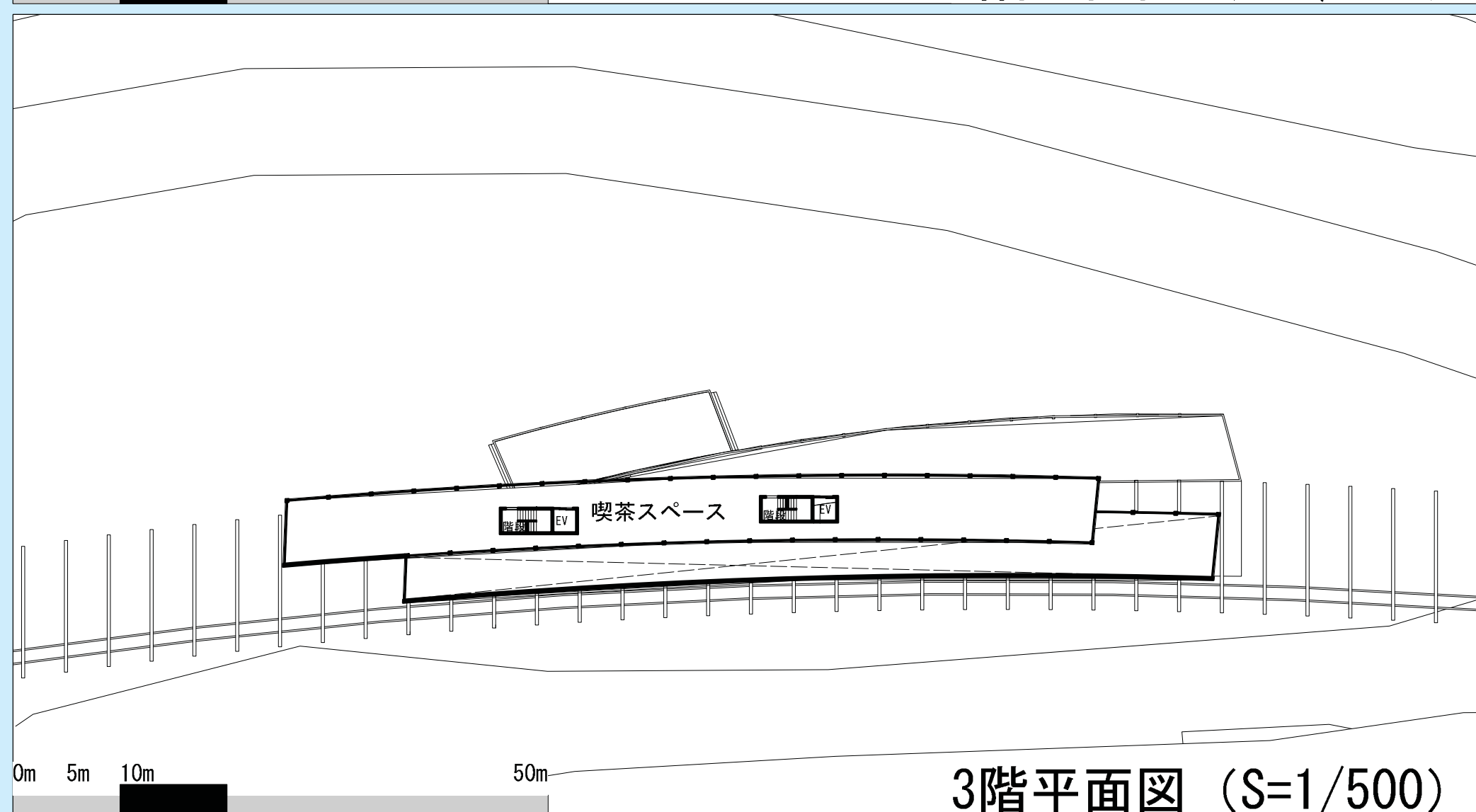
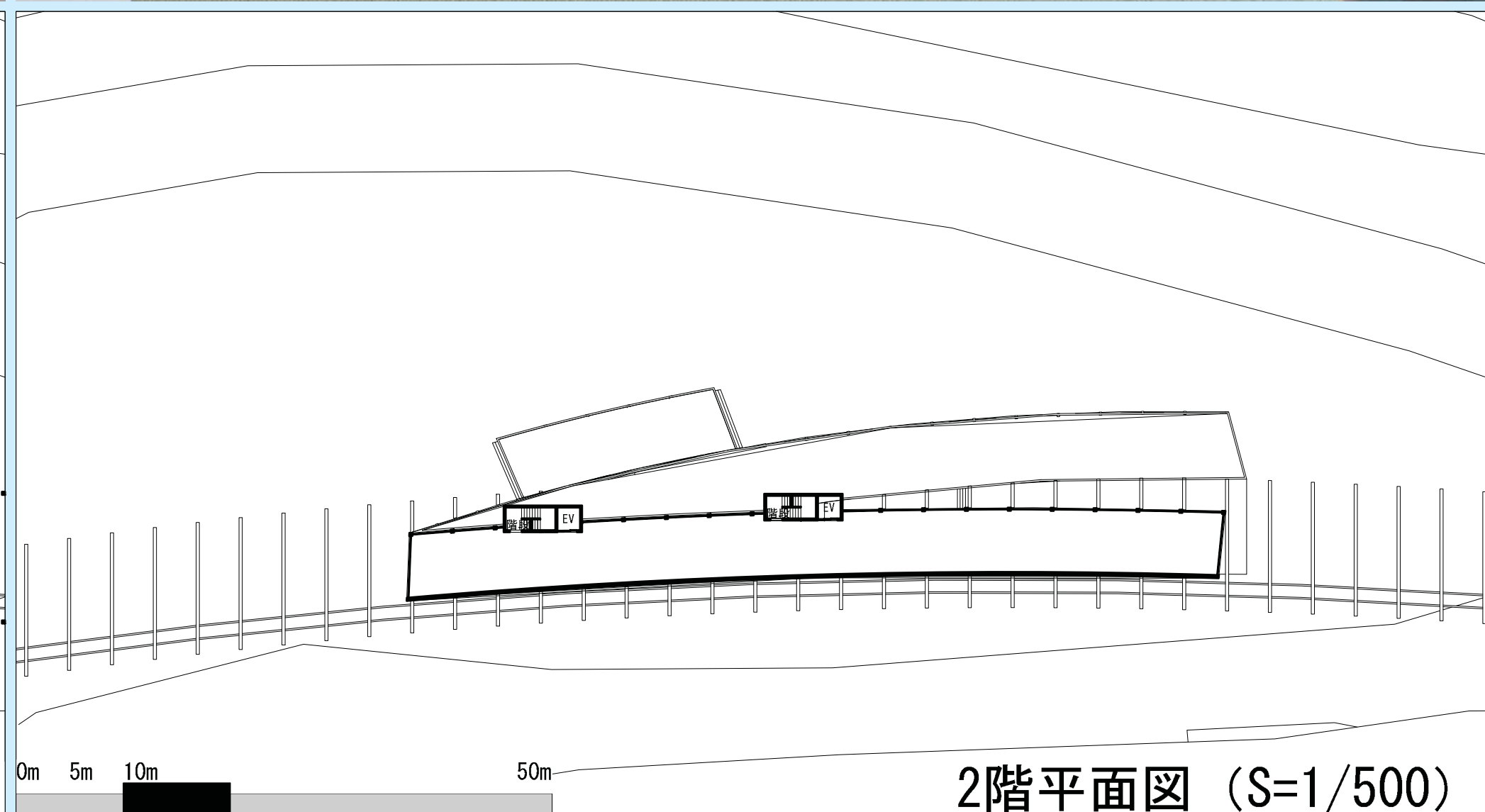
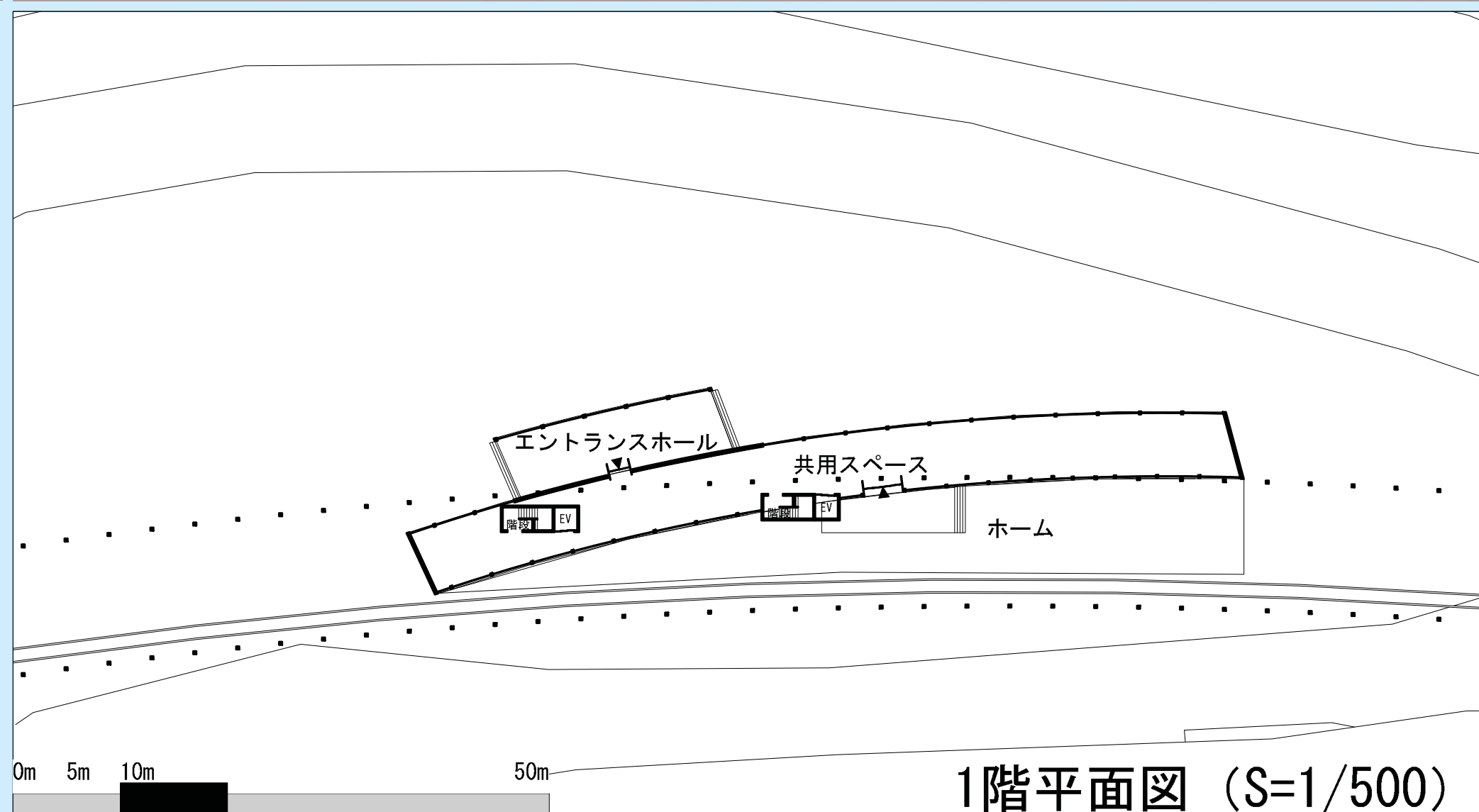




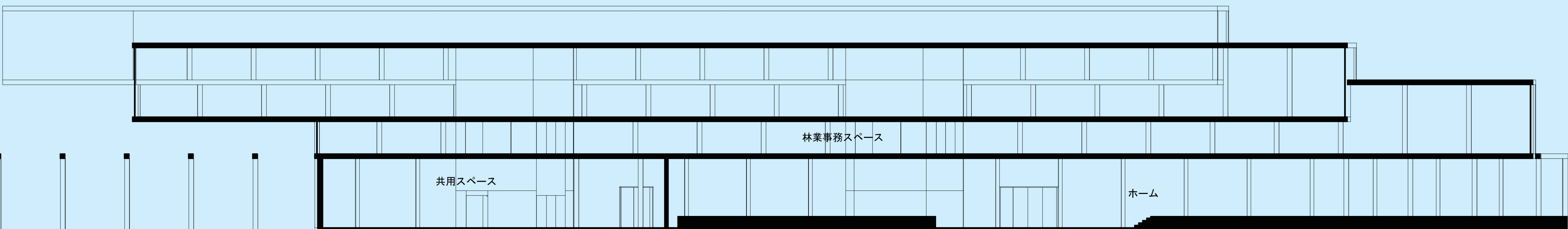
船佐駅

機能：林業

- ・船佐駅も山の斜面と河川に挟まれた敷地を持っている駅である。しかしながら敷地は平坦で比較的広い土地を持っている。山への入り口も整備されているため「林業」を行うための機能を与える。広大な敷地は木材を保存するための空間として用いて線路と敷地を建物で閉ざしてしまうことがないような計画を行う。
- ・建物は半階づつ重なるようにし各チューブからの視界が少しでも広くなるように計画した。



断面図 (S=1/150)



断面図 (S=1/150)

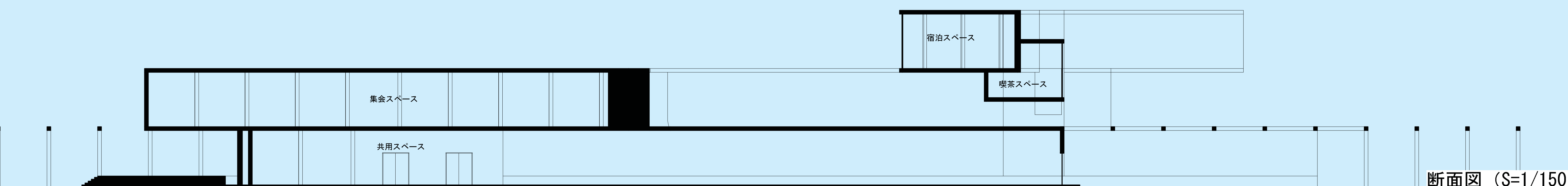
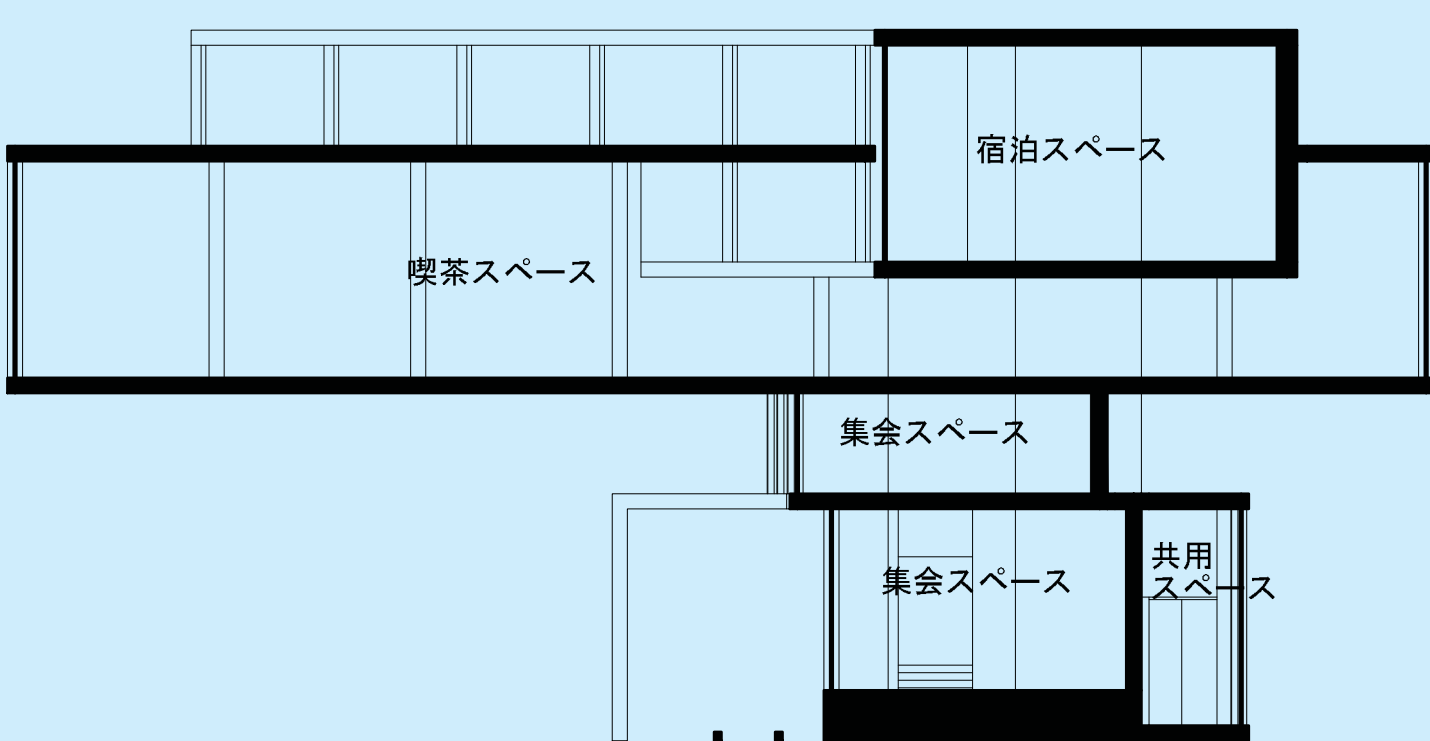
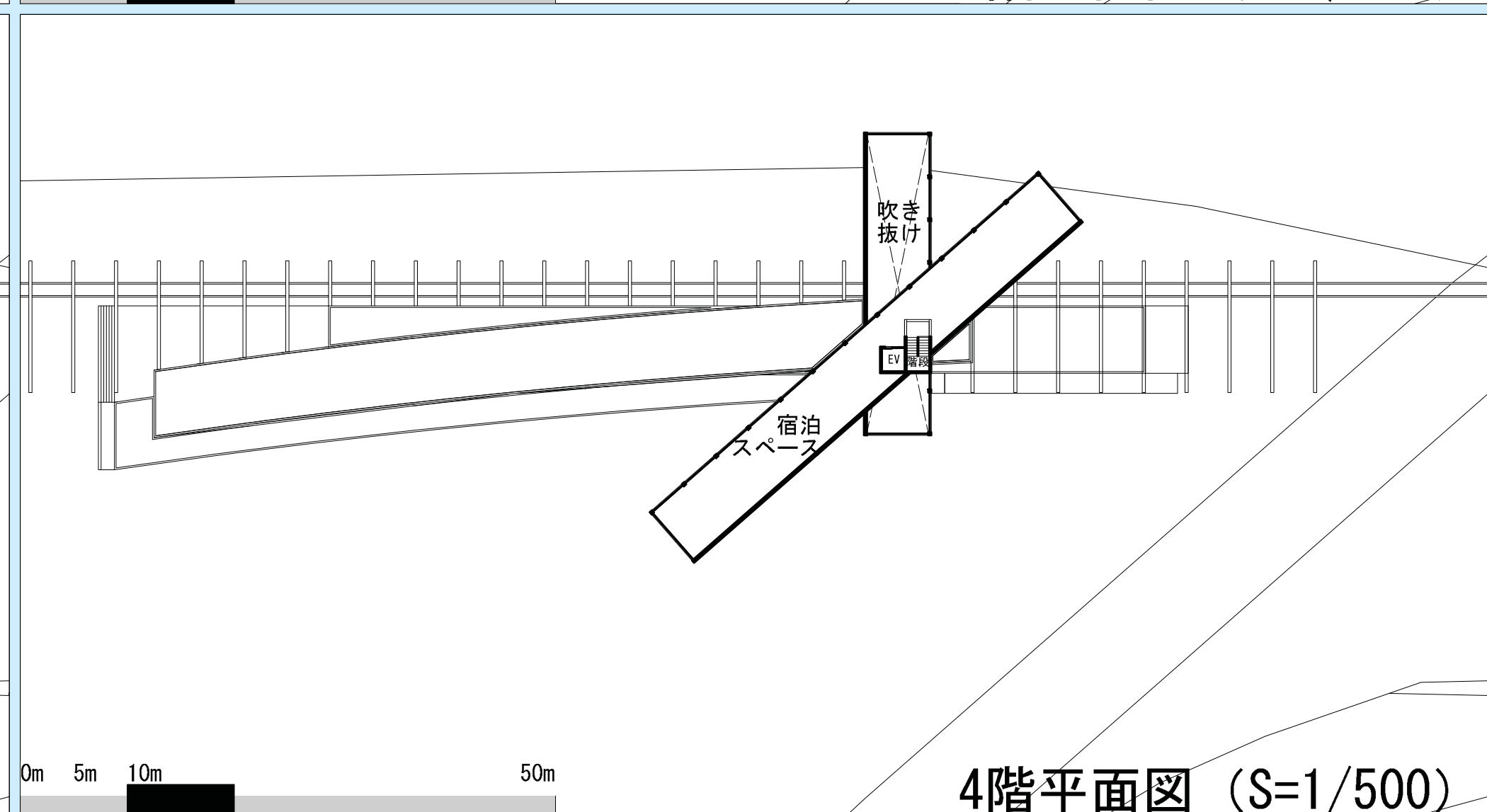
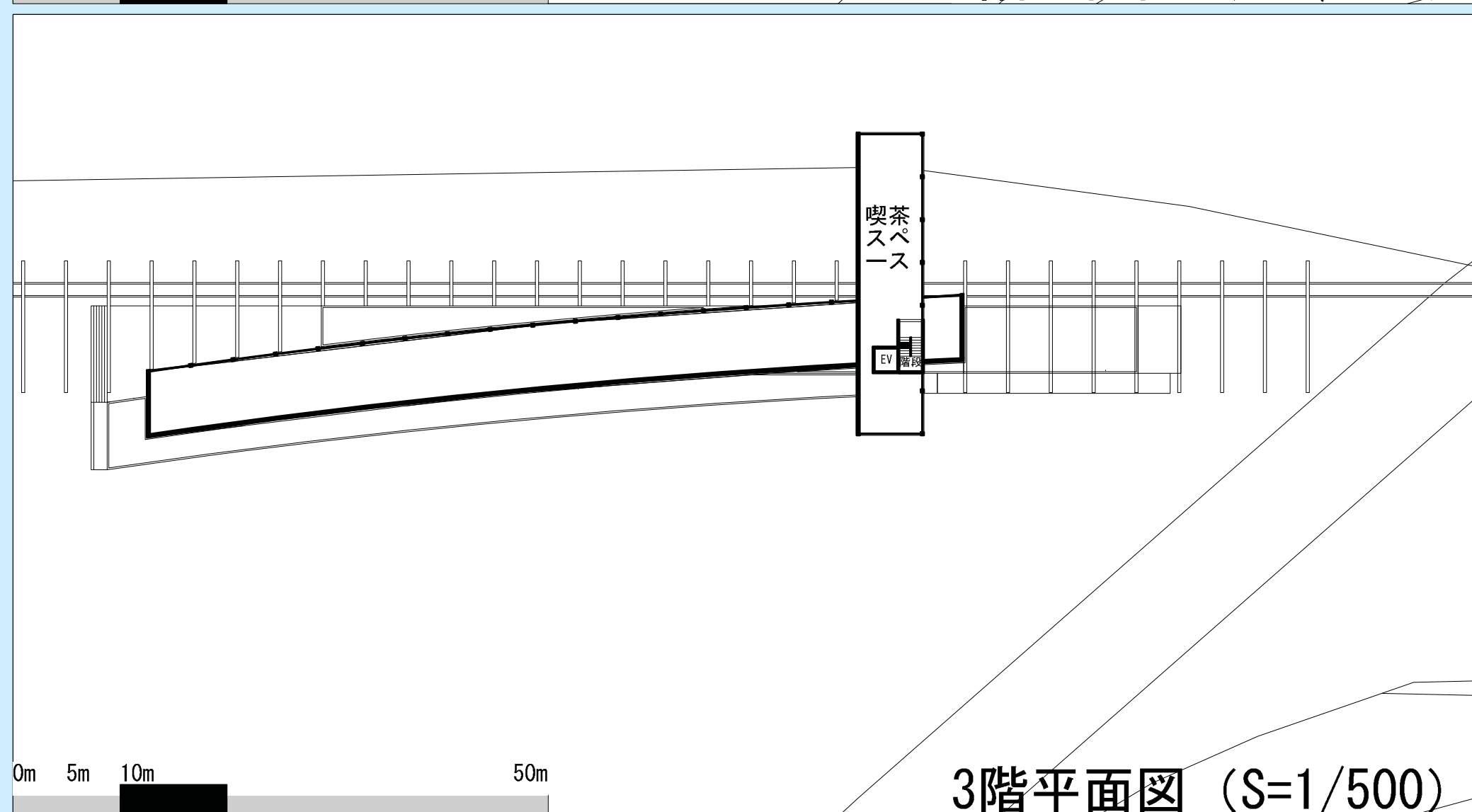
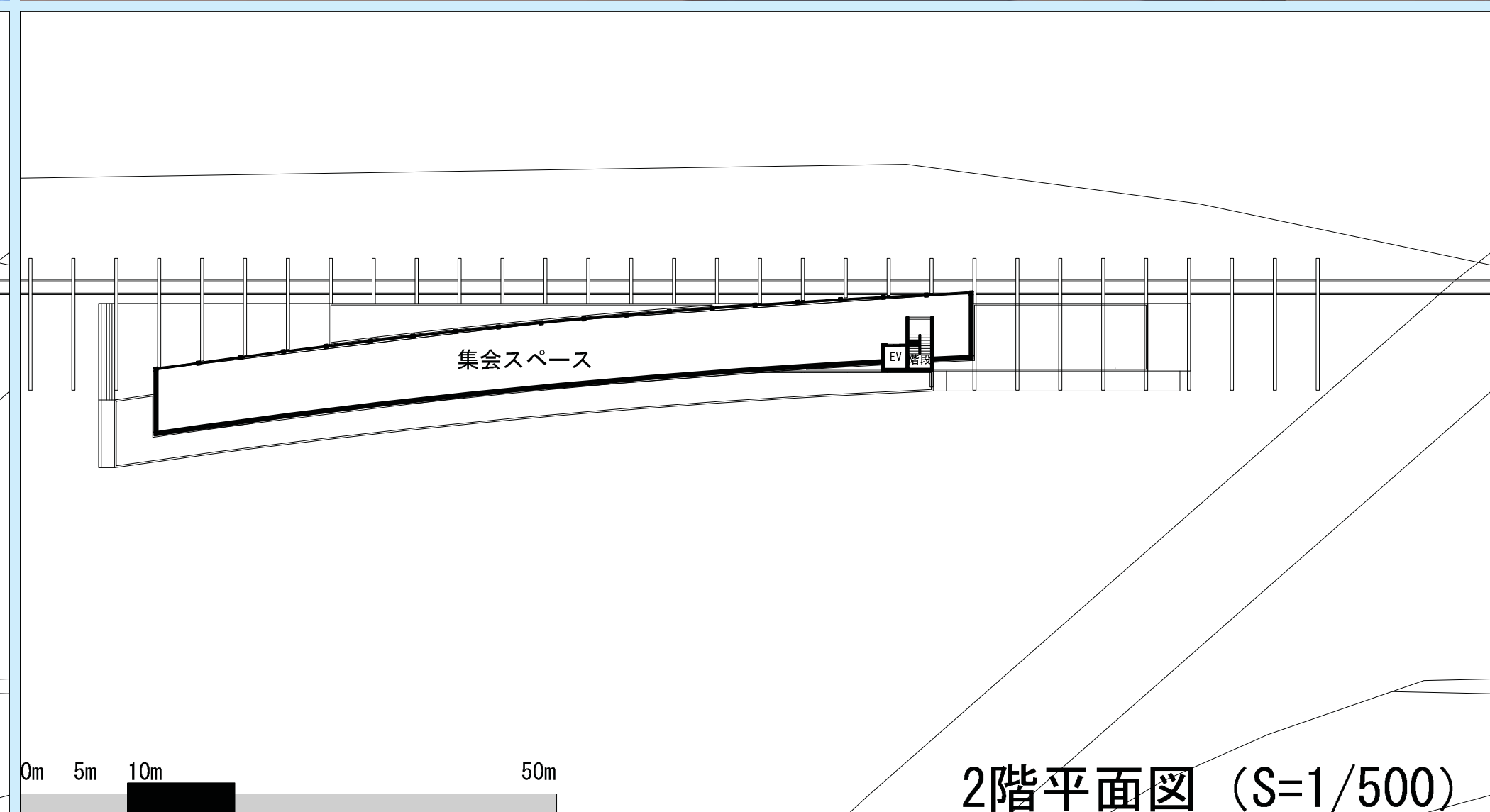
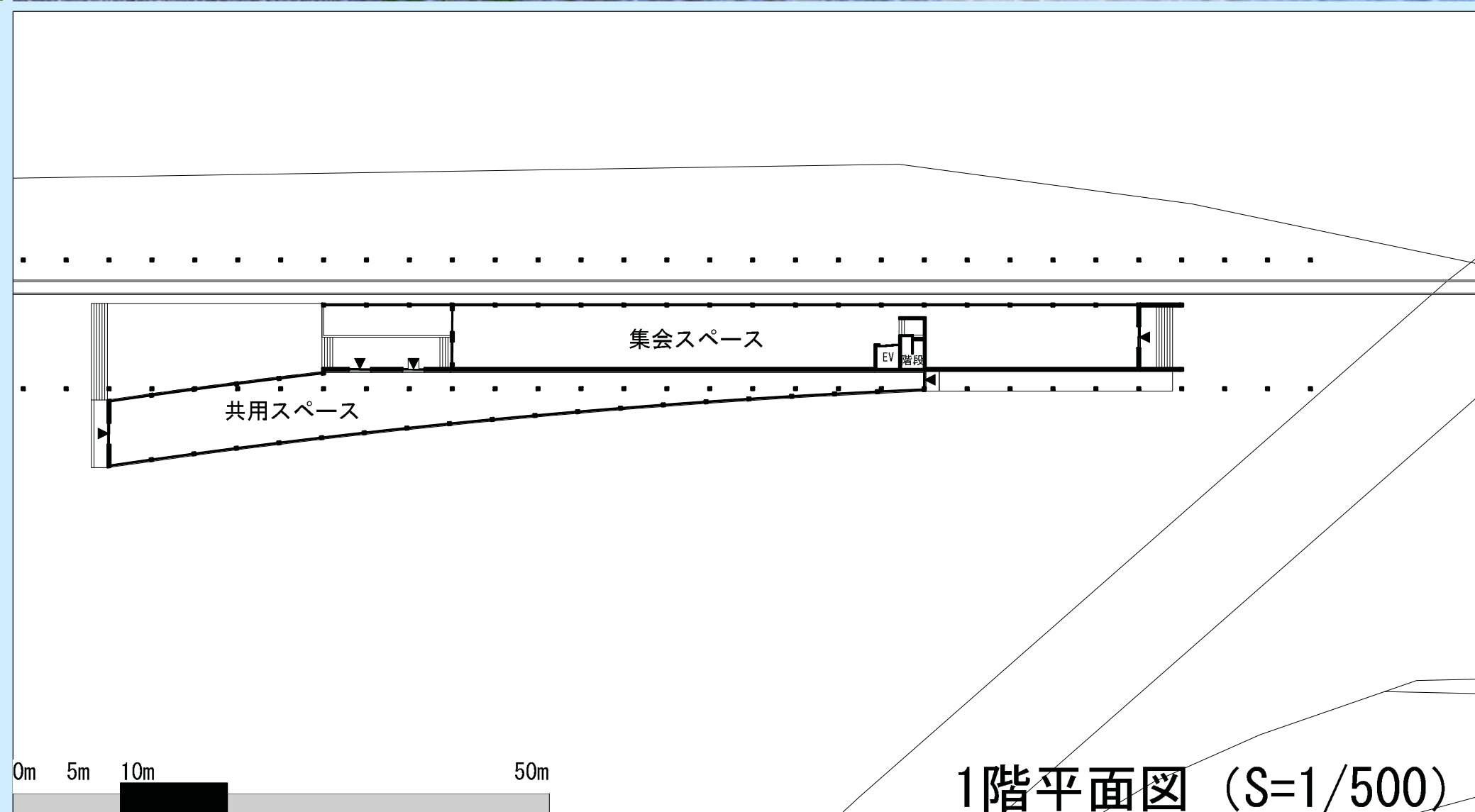


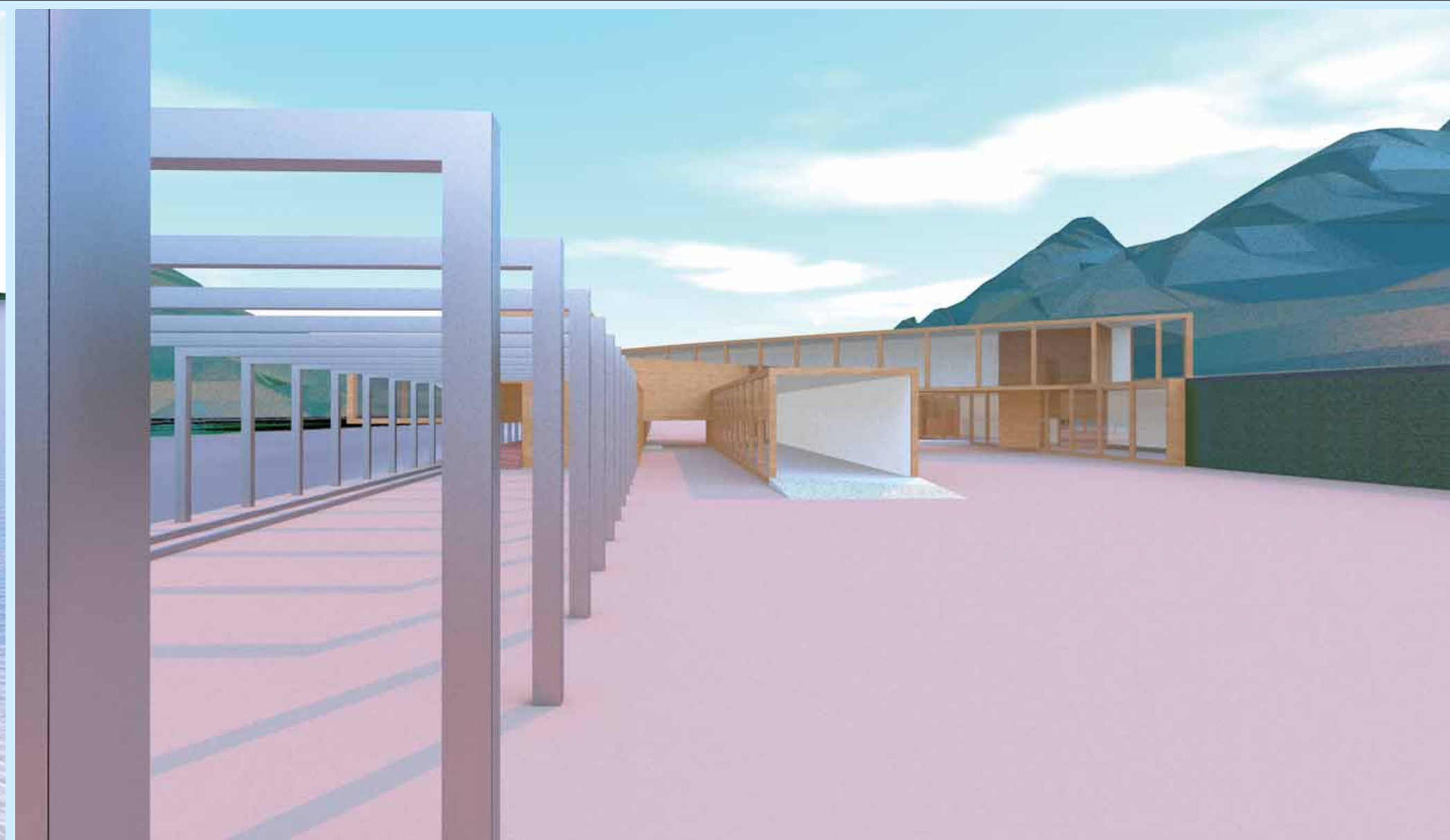
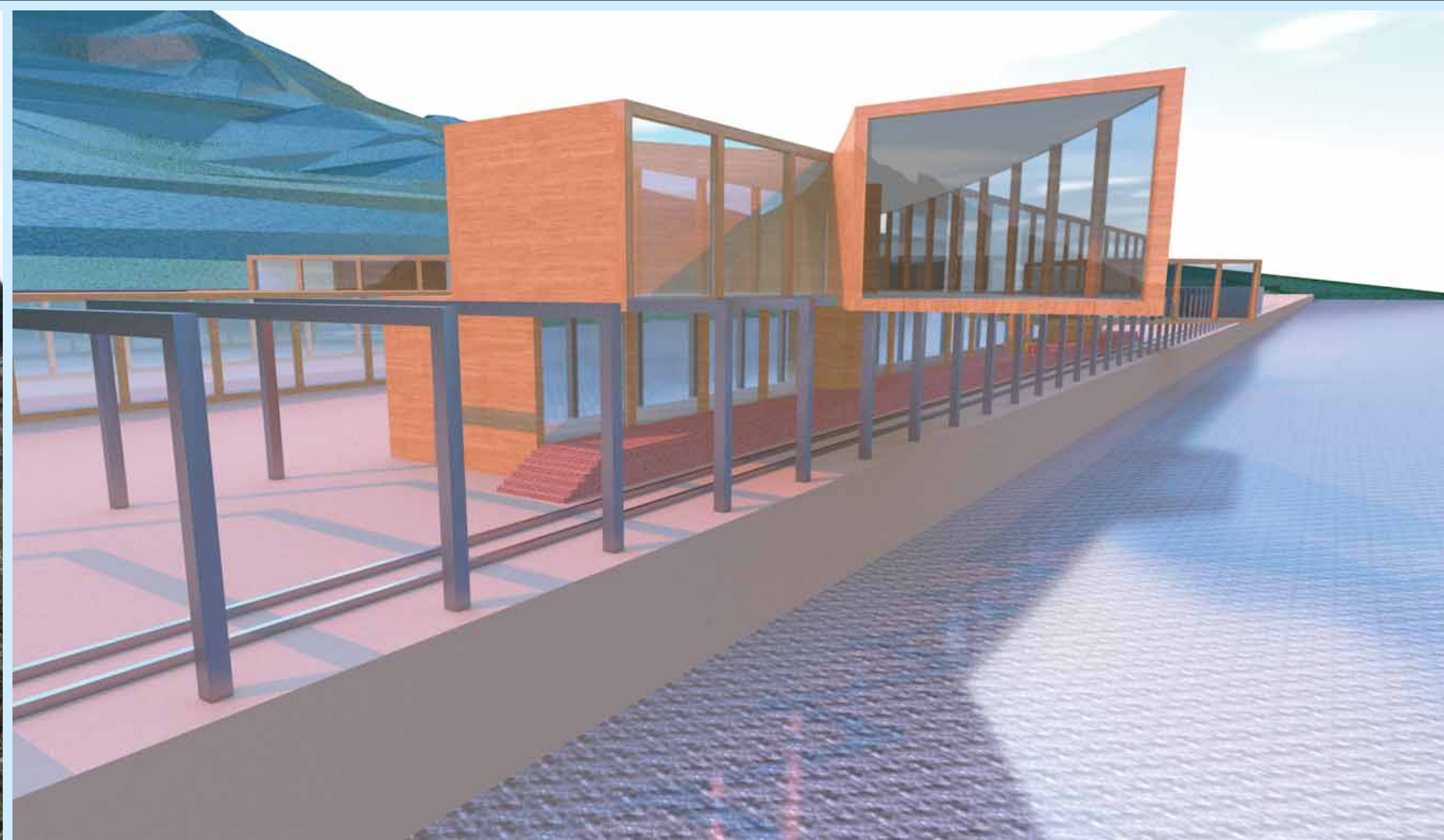
所木駅

機能：集会

・所木駅は河川に隣接しているが山の斜面は迫っていない。しかしながら周辺には農地もそれほど存在しないため産業にかかわる機能を与えることは難しい。主要道路が通る対岸とは重量制限が1tの橋とつながっていることや本計画8駅の中心に位置することから「集会」の機能を与える。対象は各駅舎の住民や駅周辺に住む人、産業従事者たちとする。

・建築形態は川の曲線に沿った緩やかな曲線チューブと周辺道路や橋に適合するように直線チューブを用いて計画を行う。橋の付近にチューブを重ね高くすることによって趣を持つ土地を眺めることができるようにする。





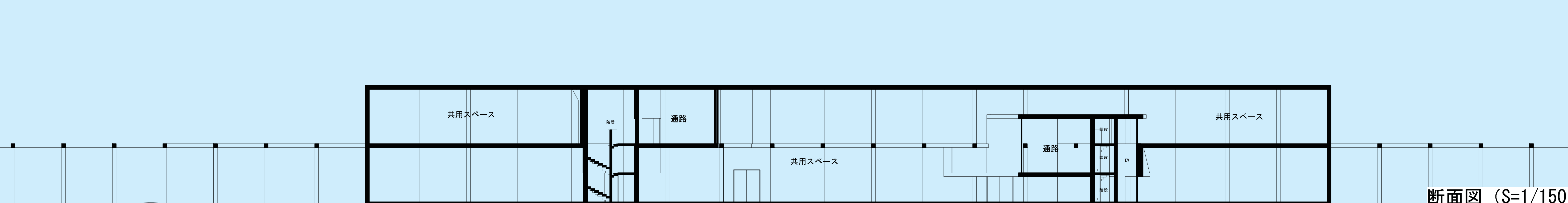
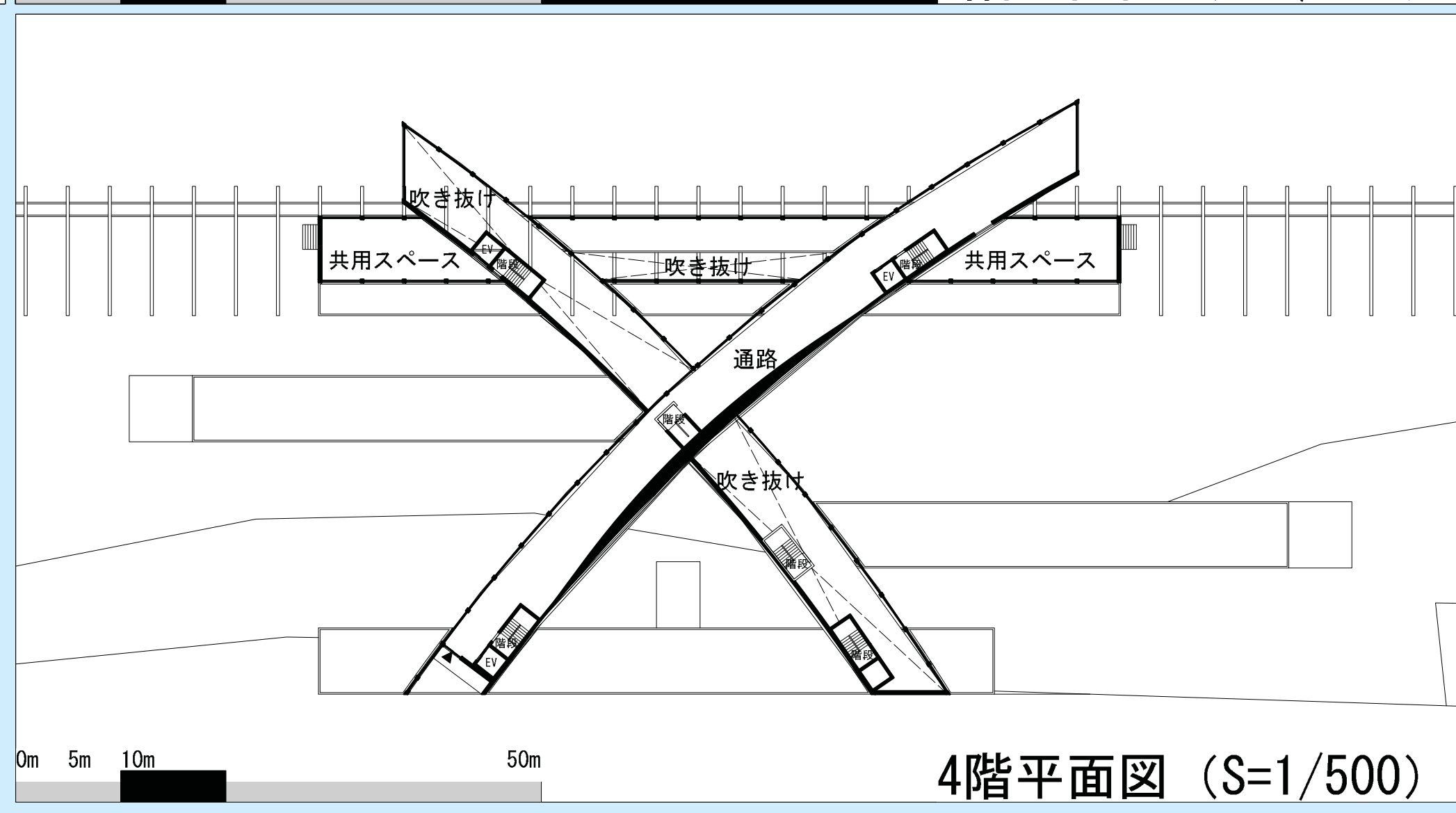
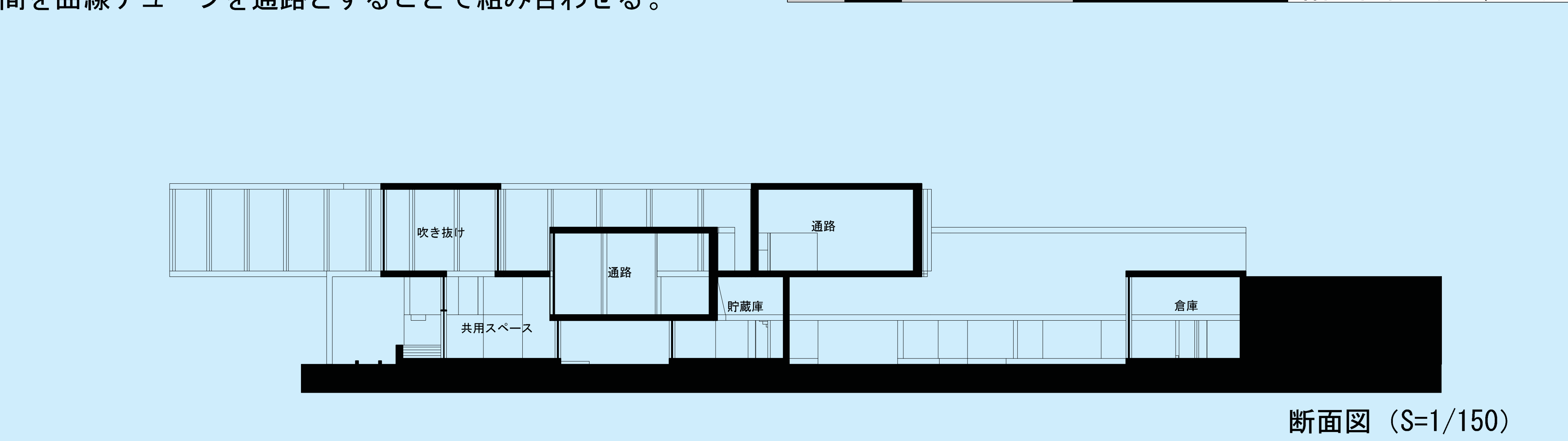
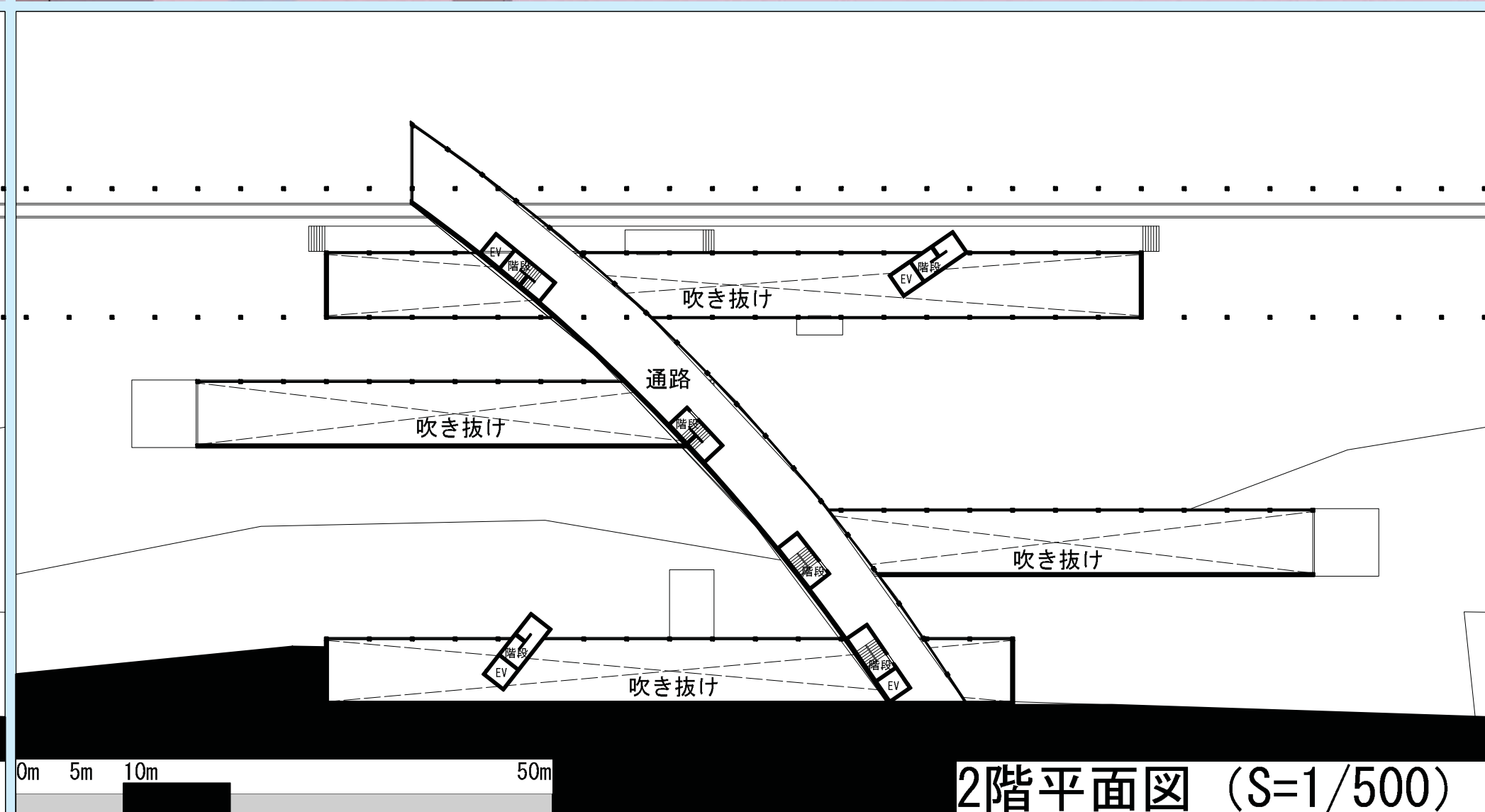
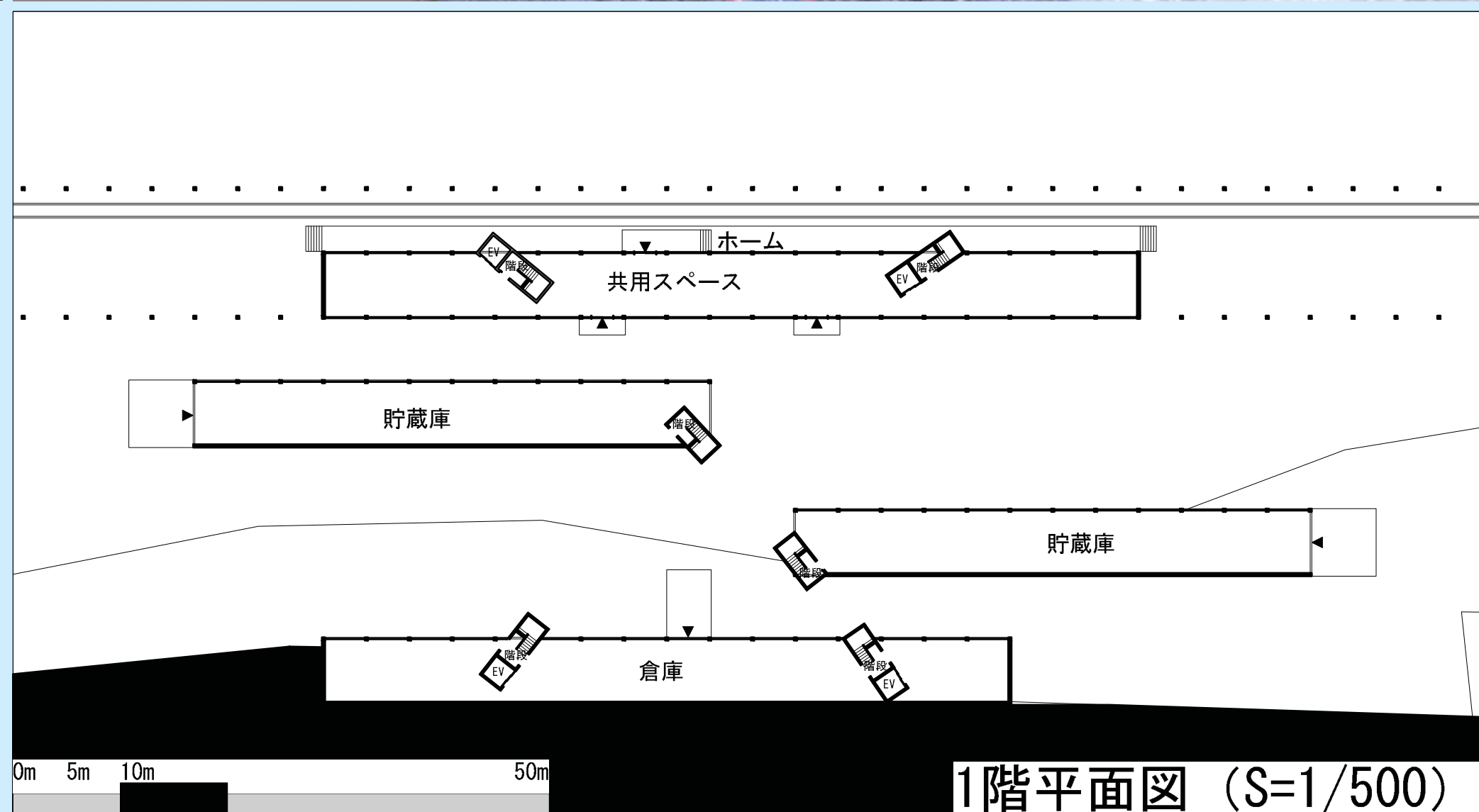
信木駅

機能：農業

・信木駅も河川に隣接した敷地を持つ駅である山の斜面も近くに迫ってはならず周辺を棚田などの農地に囲まれている。駅舎跡地は小さな敷地であるが周辺の土地は多く余っていることから信木駅が本計画の8駅中で最も「農業」に適した駅である。

本計画では敷地写真上で道路との境界線までを平らにならした敷地を用いて計画を行う。

・建築形態は河川や対岸の斜面が直線に近い形状をしているため直線を主に計画する。直線チューブを点在配置させてそれを農作物の貯蔵庫や倉庫として扱い、それをつなぐ屋内空間を曲線チューブを通路とすることで組み合わせる。

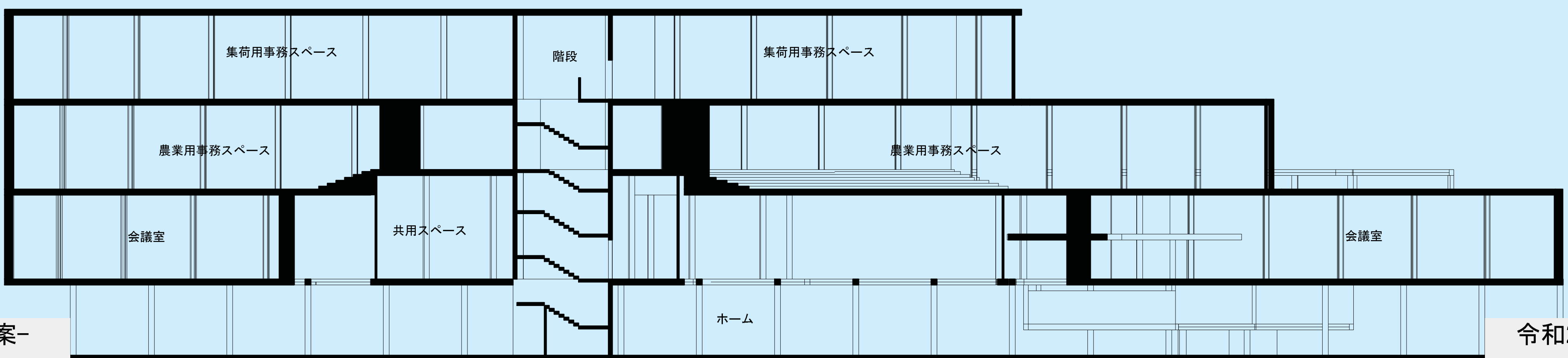
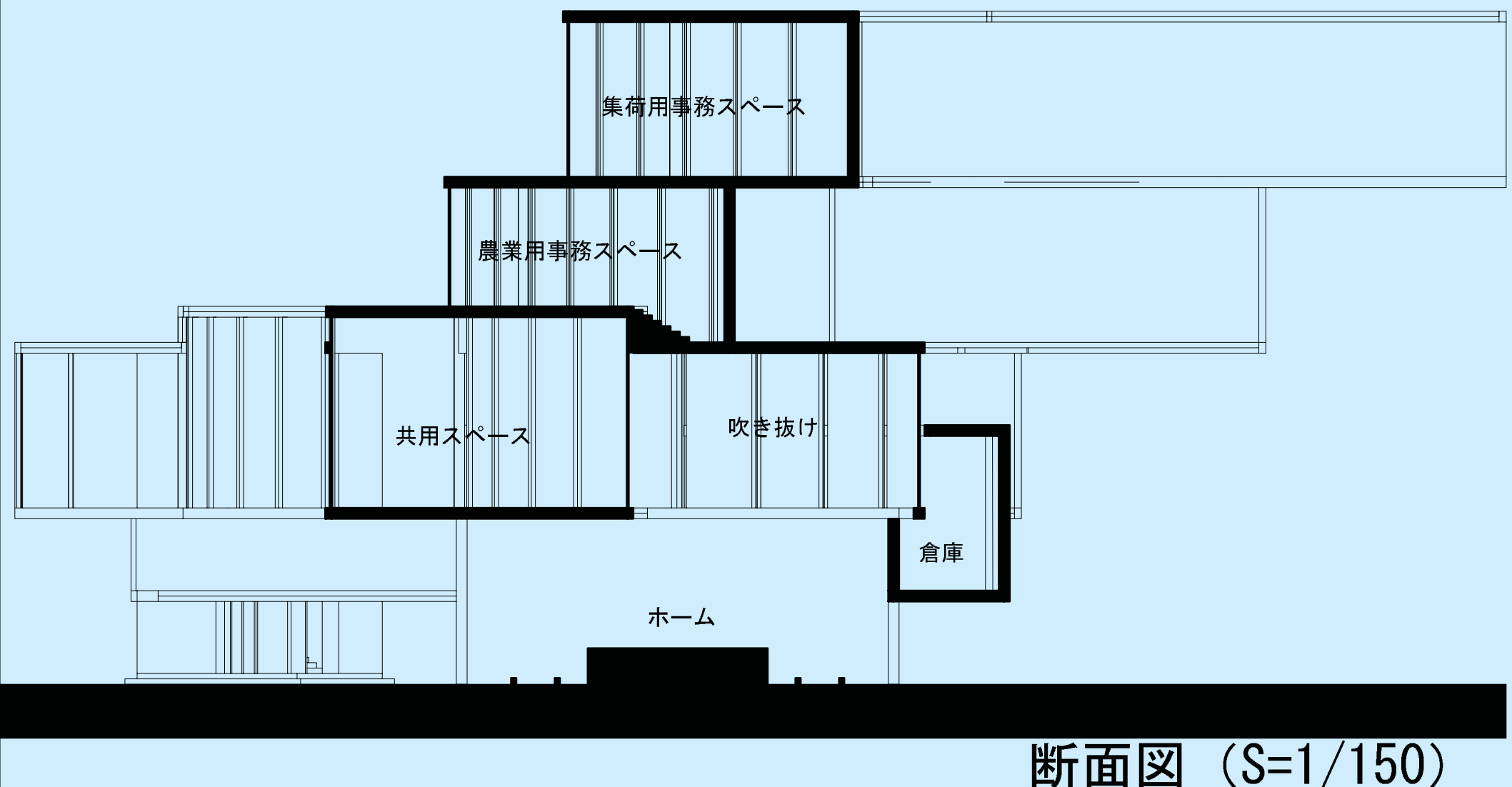
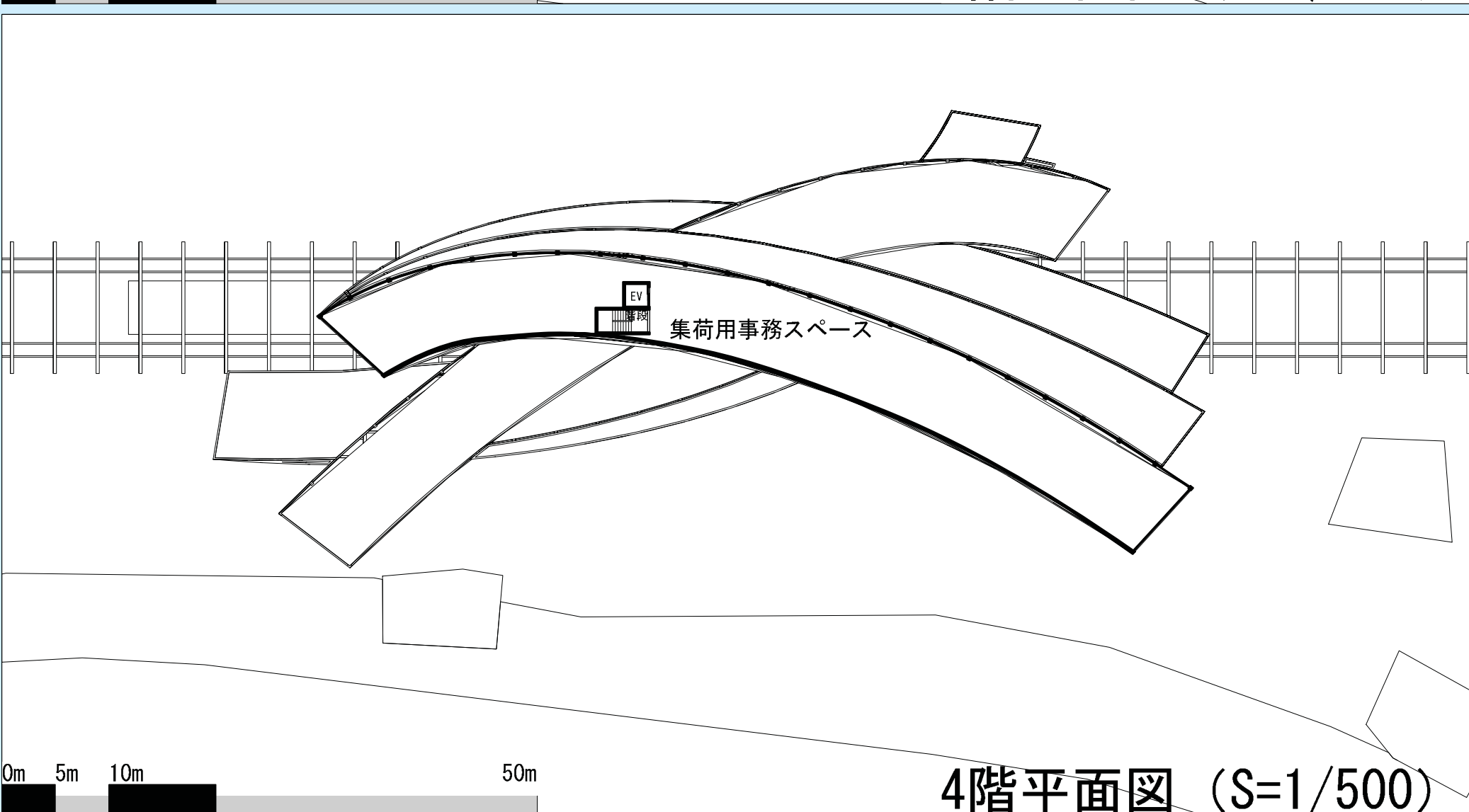
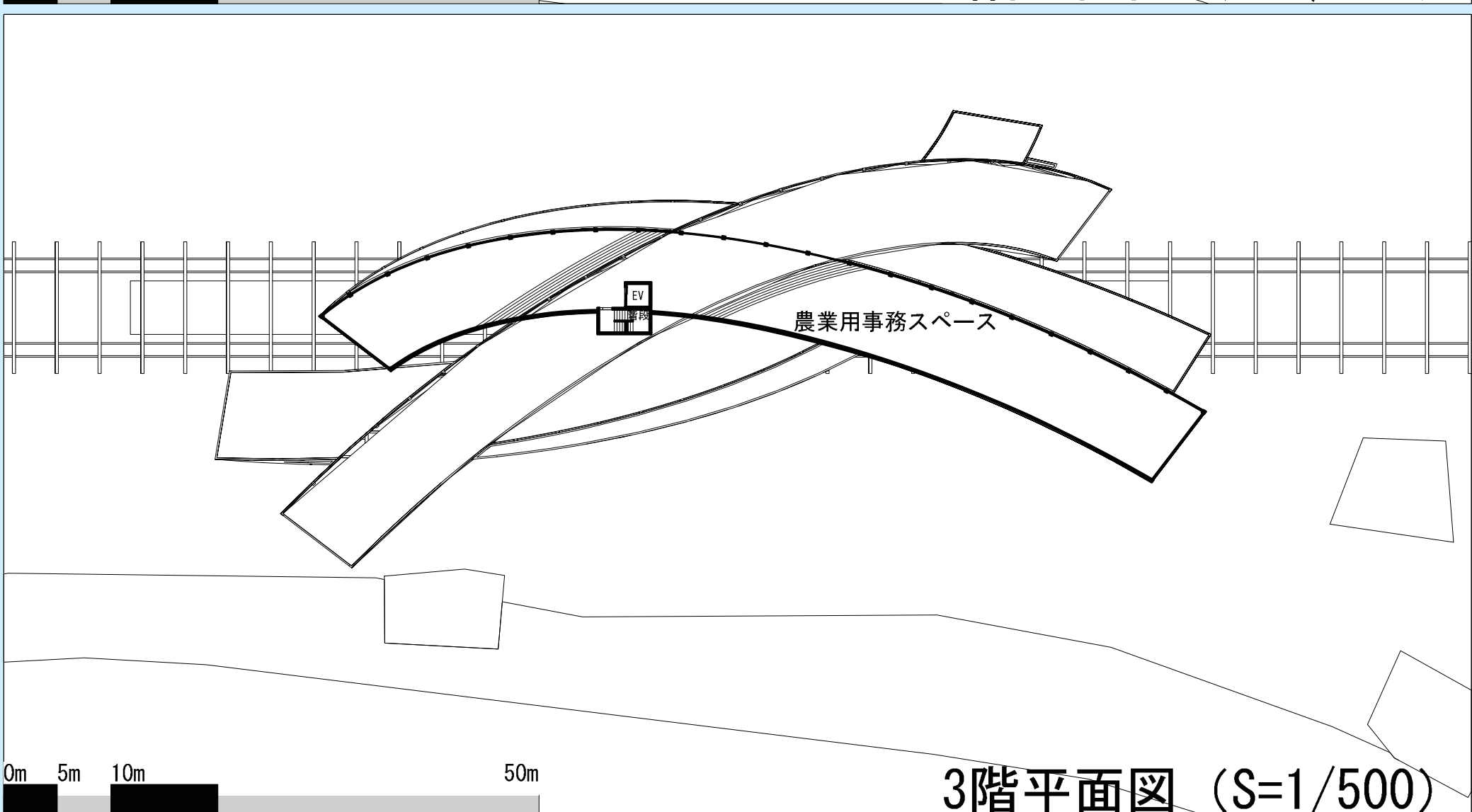
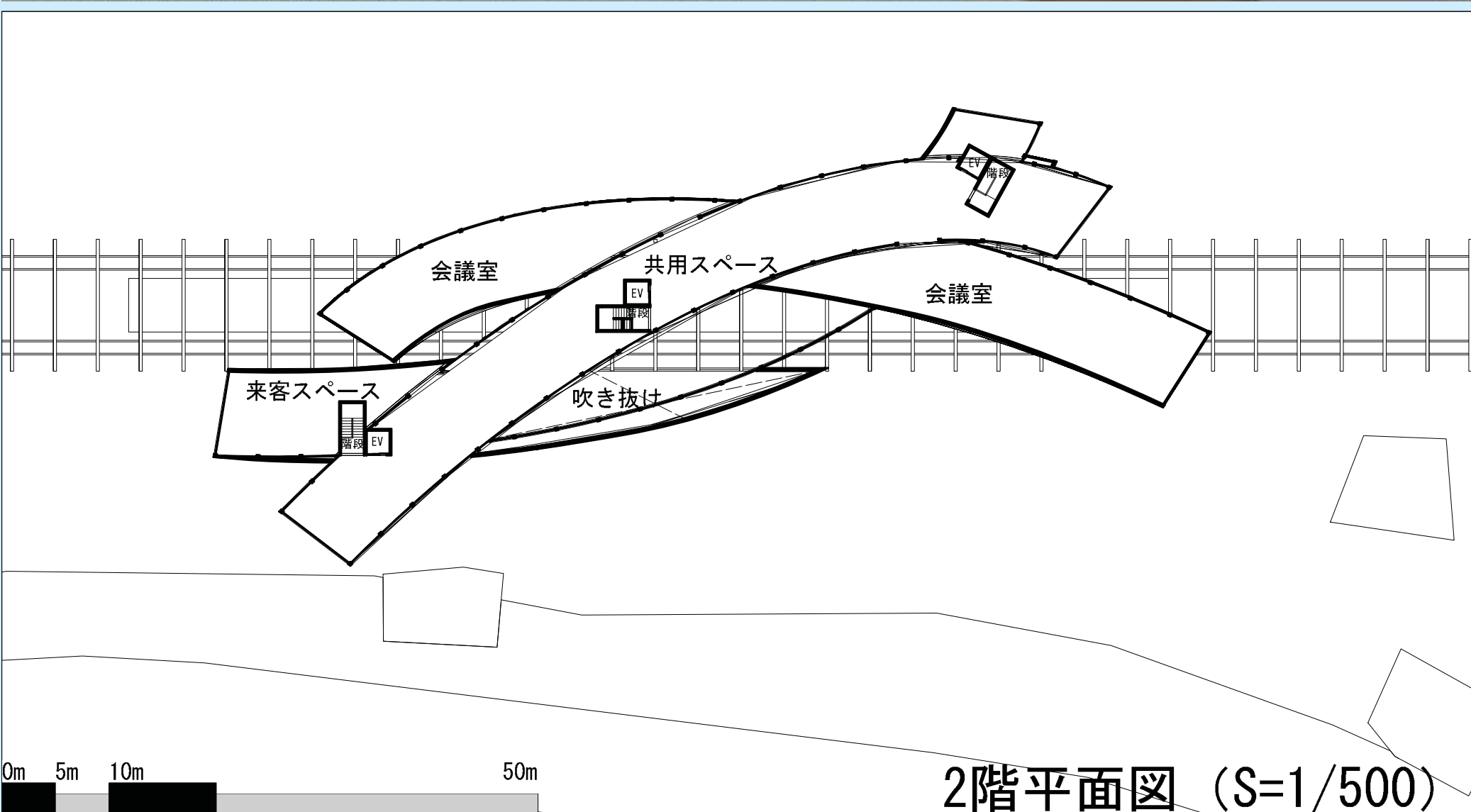
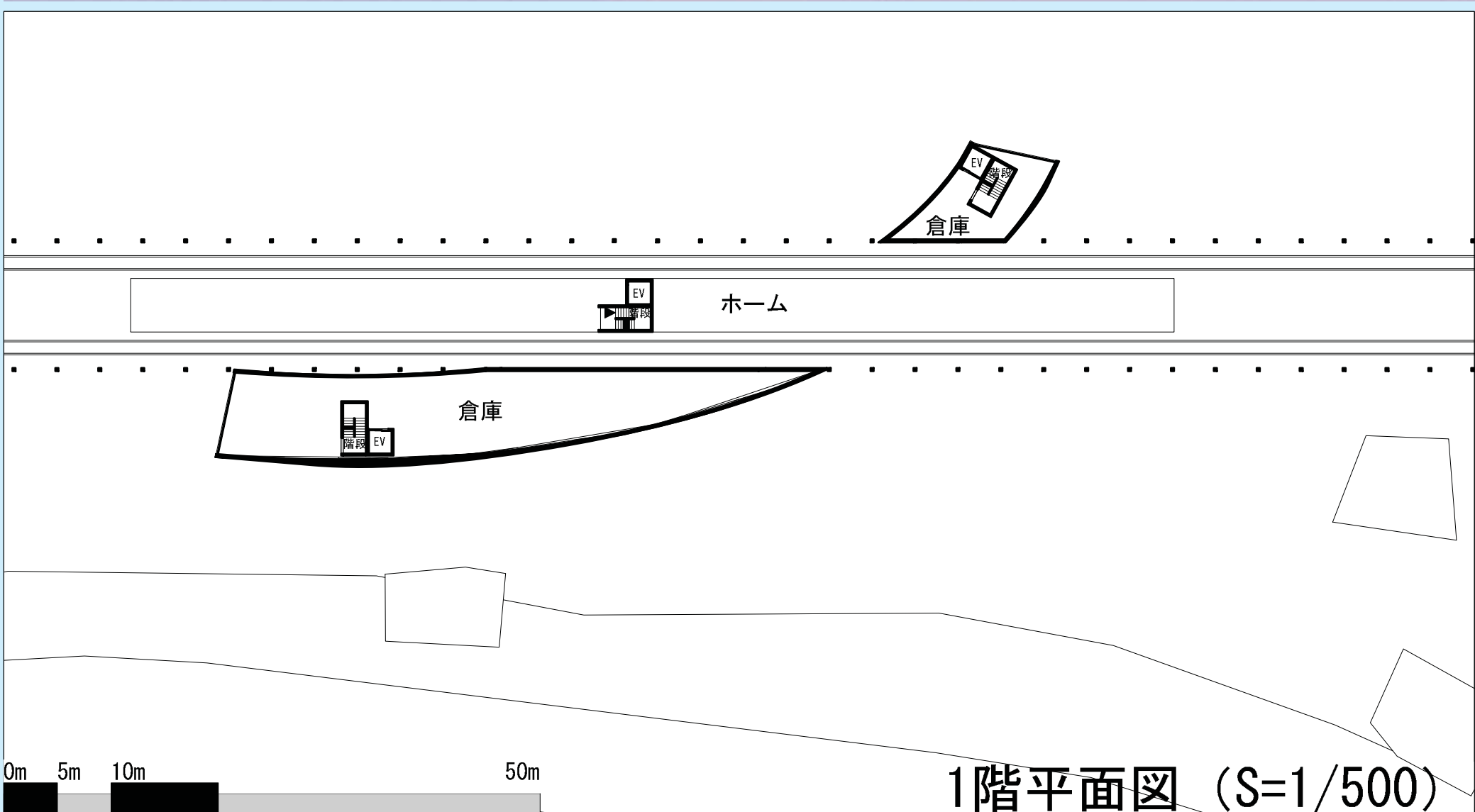


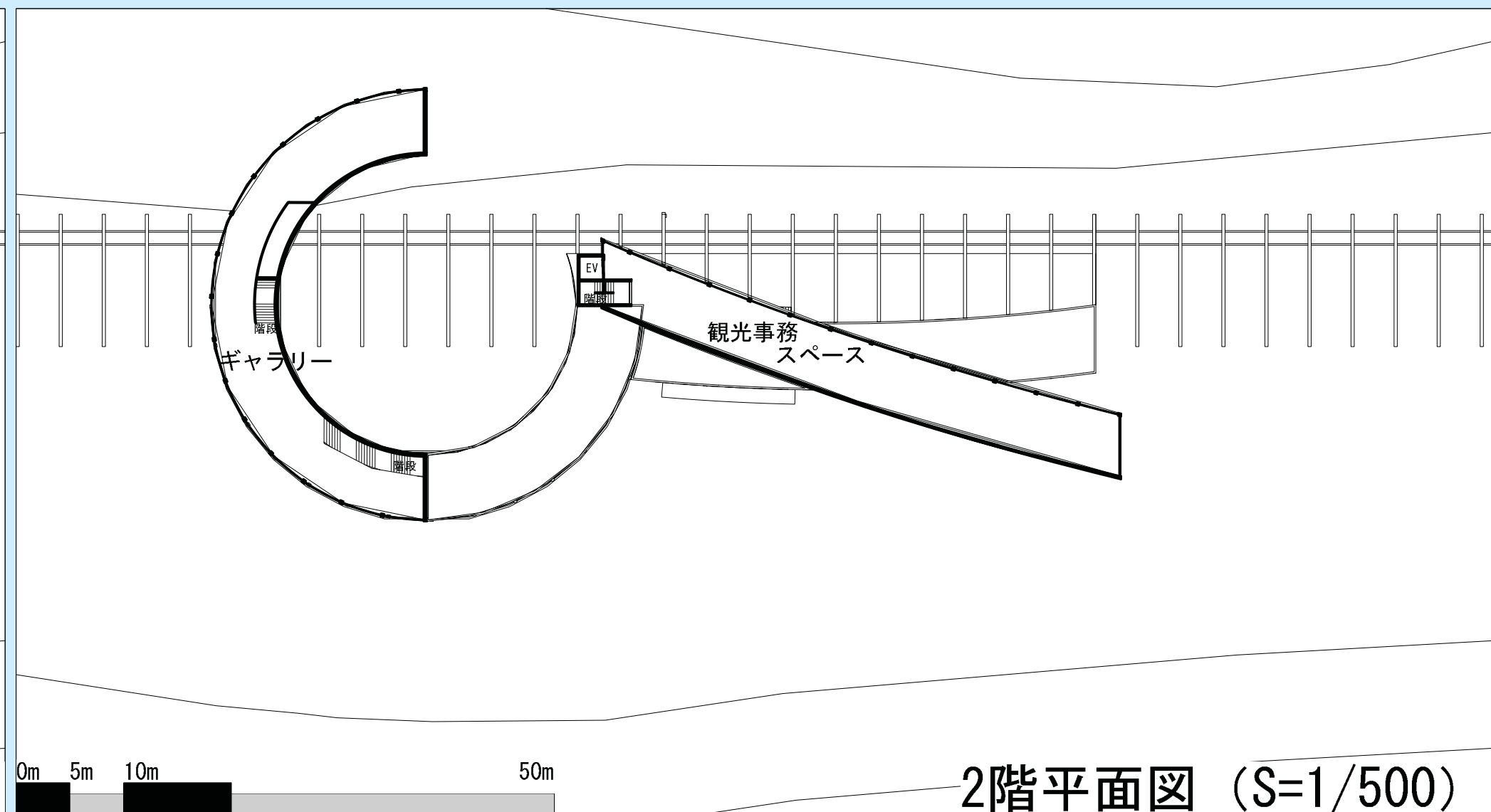
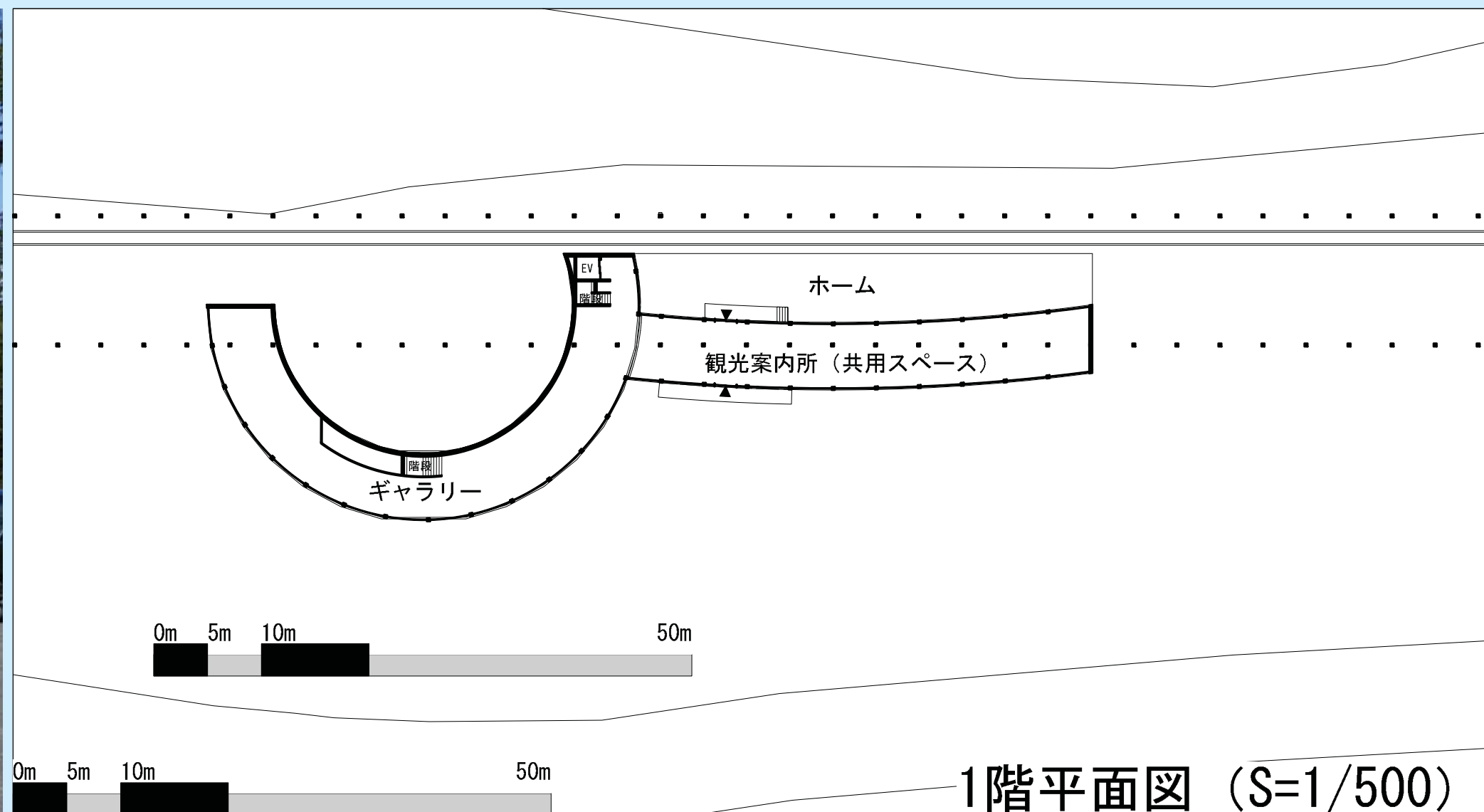
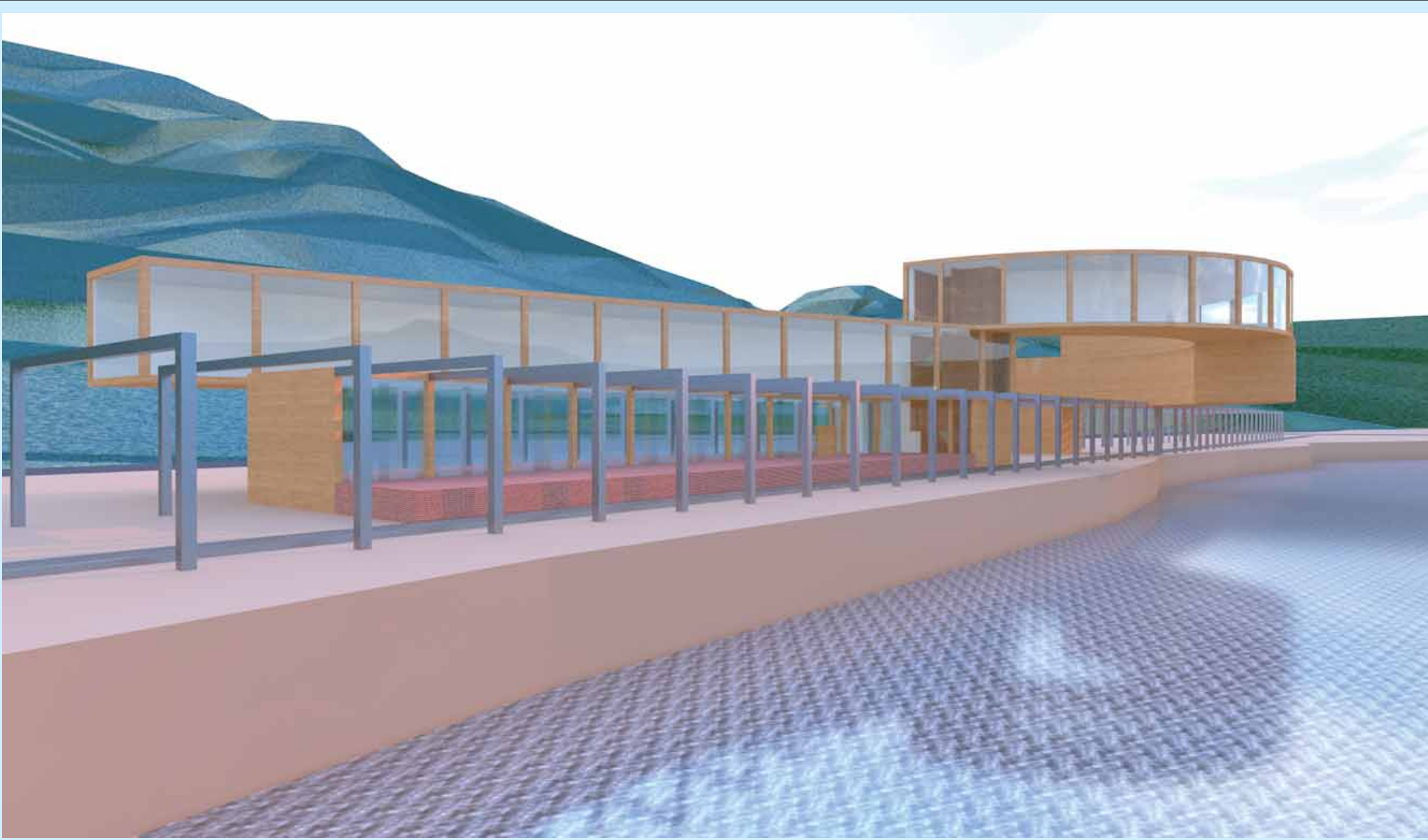


式敷駅

機能：農業・集荷

・式敷駅も敷地周辺に山の斜面が迫り、付近を河川が流れている敷地である。
しかしながら式敷駅は他の敷地よりも広大な敷地を持ち駅内は複線となっており二台の列車が停車できるようになっている。
国道375号線につながる橋も対面で通行が可能である。そのためこの敷地は農業と集荷の機能を与えることが望ましいが交通の利便性が高いことから集荷の機能に重点を置いた計画が望ましい。
・建築形態は機能としては限定的な敷地であるため曲線を用いたチューブを用いて計画を行う。栗屋駅と同様の機能を持つことにはなるが敷地の立地等に違いがあるため栗屋駅との差別化を図った計画を行う。



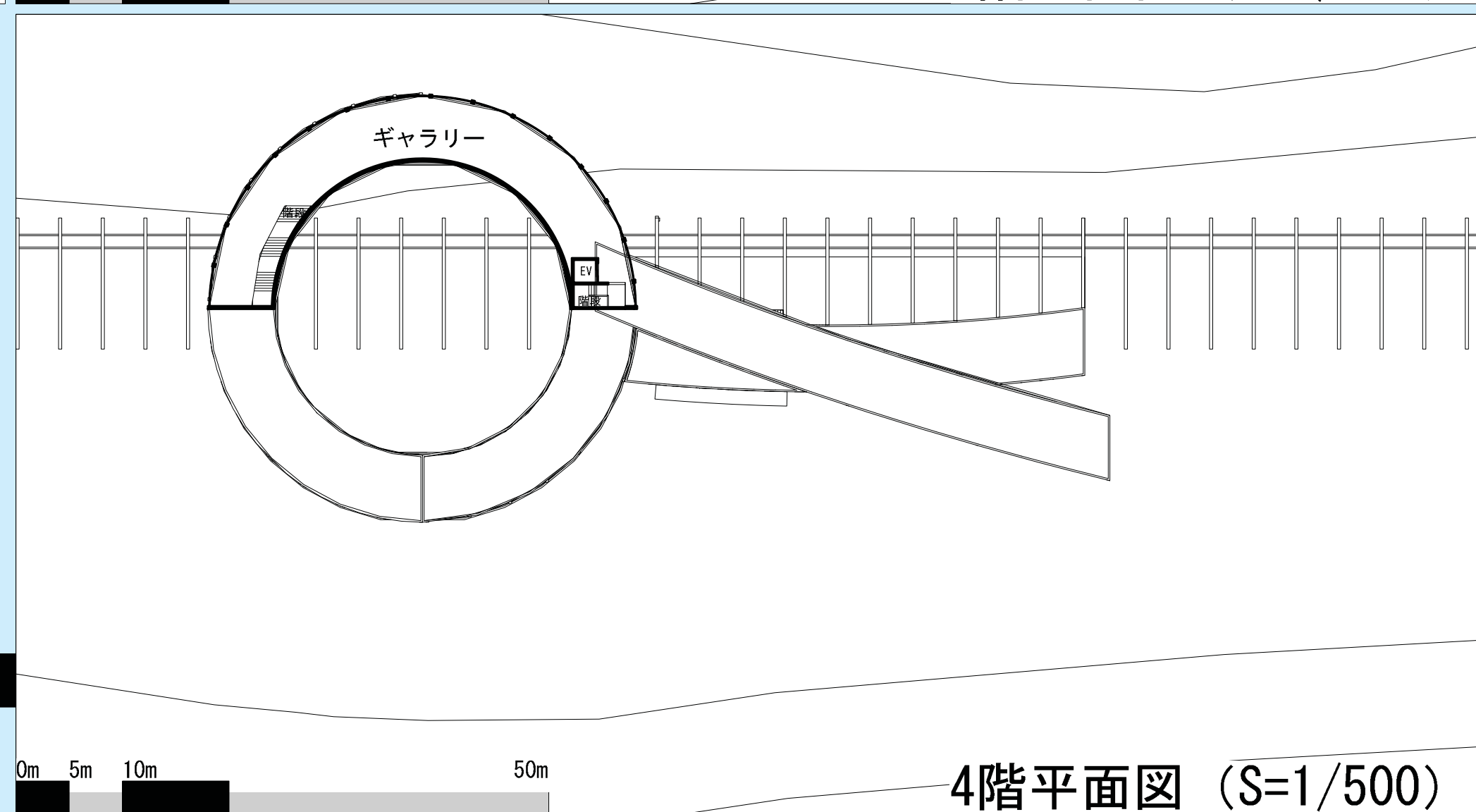
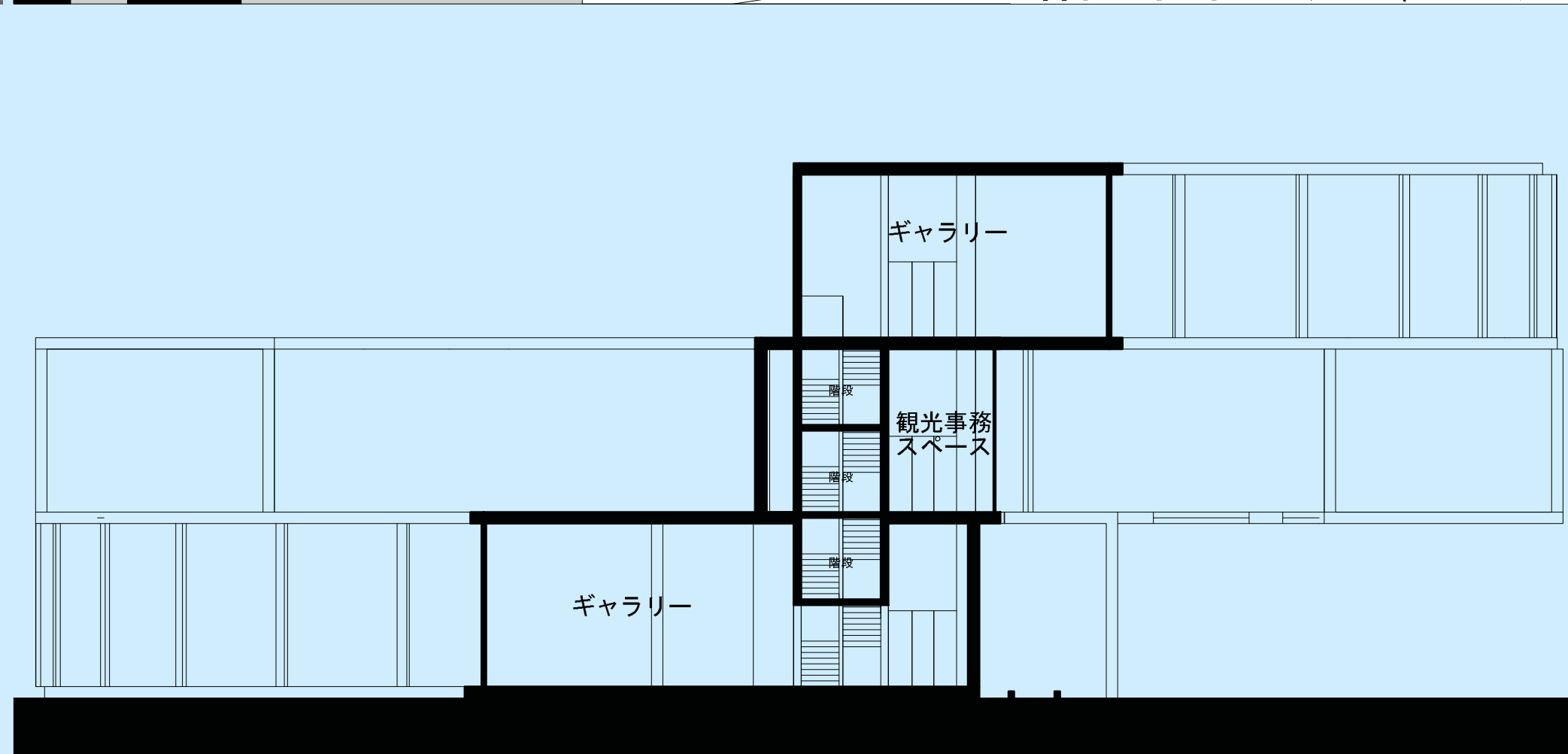


香淀駅

機能：観光

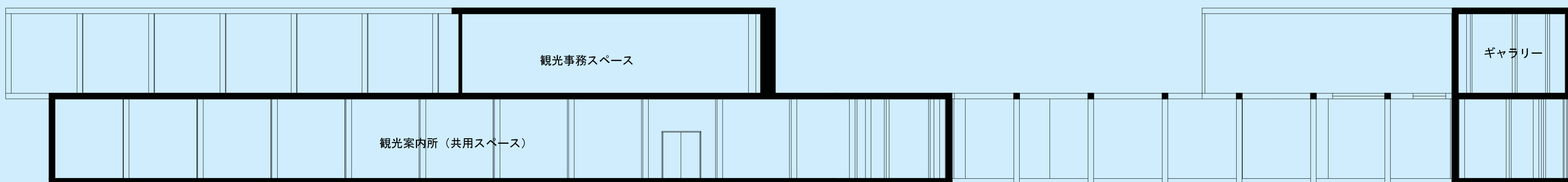
・香淀駅も河川に隣接した駅である。山の斜面は迫っていないが周辺に農地も少ないため産業に関わる機能を与えることは難しい。駅周辺には県北の観光地がいくつか集まっているためそれらに関わる拠点として観光案内所等の「観光」の機能を与える。人が集まることを想定した機能であるためギャラリーも併設させる。

・建築形態については限定的な機能であるため曲線チューブを用いて計画を行う。メインとなる建物は対岸の斜面と川の曲線から得た曲線を用いて作り上げる。敷地側の尾根線が半円に近い形状をしているため半円のチューブを組み合わせてギャラリー部分を組み合わせる。



断面図 (S=1/150)

4階平面図 (S=1/500)



断面図 (S=1/150)